

伝習館



東京同窓會會報

第24号 2024.1.1



「刻」
池末 満・画

5年ぶり東京同窓会総会開かれる
新制伝習館高校事はじめ2
紛争のスーダン・ハルツームから
の脱出

釣りと自転車の履歴書
へそくり山 柳河城址公園の
思い出
4年ぶりに母校と柳川訪問

電話詐欺の話
2度目の青春 行く人来る人
8回生、最後の同期会
俳句会入会のすすめ

5年ぶり、東京同窓会総会開かれる

WHOの新型コロナウイルス緊急事態宣言終了、国内も5類（季節性インフルエンザ同様）に感染対応が移行との見込みにより、年初2月より伝習館東京同窓会総会開催への準備がスタートした。慣例となっていた九段のホテルグランドパレスが廃業したため、会場探しがひと苦労。参加人数（200〜300人）に合わせてられる会場探しから準備は始まった。

会場については先に仮押さえしていた田町グランパークカンファレンスを決定。グランドパレスのように大広間1室とはいかないため、会場は150人収容の部屋を2カ所予約（さらに中部屋2カ所）。32回生、一木亮之介、甲斐田幸輝さんらが力強いリーダーシップで、若手を巻き込んで実行委を組織し、総会開催に向けた各作業が行われた。

5月28日（日）、爽快な気候の中、甲斐田実行委員長による伝習館東京同



吉住聖香さん（中央）と若手先輩たち



柳川から大同窓会のスタッフが上京、阿志賀実行委員長から協力の呼びかけがなされた

窓会総会が実施された。実に5年ぶりの開催である（親睦会から4年ぶり）。従来、総会の前には講演会が行われていたが、今回は池上英次さんの発案で伝習館高校とのweb中継が実施され、自然科学部生物班の生徒たちにより「ニホンウナギの生育可能な水環境維持研究」が報告された。

伝習館とのweb中継



立花民雄同窓会会長、井上淳郎館長



全見美佳さんの歌声とチェロの響きに酔う



乾杯の音頭は最高齢の宮本さん（左）、高口さんの伝習館中学の二人

池上さんのコメント「想定外もあったがこれまでなかった試みで、母校の現場とも触れ合えた。世の中の変化に対応する意味でも良かったと思う」

続いて白谷会長、立花民雄同窓会会長、井上淳郎館長らの挨拶。それから金見美佳さん（49回生）によるソプラノコンサートに心和むひとときを過ごした。

この後は会場を4階から3階に移して懇親会がスタート。前年、全国高校卓球選

抜大会で伝習館に約70年ぶりの優勝、全国一をもたらした吉住聖香さんを紹介（吉住さんは春から早稲田大法学部に進学、ゆえに招くことができたのであった）。早稲田では卓球部に所属し、高校時代と同じ学業との両立に充実した日々を送っているという。

続き柳川の第73回伝習館同窓会総会実行委員長・阿志賀浩一氏（マスターズ甲子園出場の野球部OB会主将）による協



有明海の映像を前に「帰去来」を熟唱



2択クイズ全員参加で盛り上がる



校歌を高らかに歌って終了

第24号 2024.1.1

表紙絵 高21 池末 満「刻」

第90回 独立展出品作、200号。筑後川支流（城島地方）の早春の情景。
川の流れば川底に時を刻みながら季節は移りゆく。

・東京同窓会総会開催される
24号目次 1

東京同窓会本部だより

令和6年 年頭の挨拶……会長 白谷政則 2
学年幹事会活動報告・学年幹事名簿 3
東京同窓会決算報告書・総会決算報告書 3
賛助金ご協力状況報告 4
賛助金通信欄コメント 5

特別寄稿

新制伝習館高校事はじめ その2 高4 渡邊 喜亮 6
紛争のスーダン・ハルツームからの脱出 高51 大曲由起子 12

先輩・後輩より

・釣りと自転車の履歴書 高2 小野 善睦 14
・柳川徒然草（5） 偶にはお芝居も 高4 小野硯一郎 17
・へそくり山 柳河城址公園の思い出 高4 荒井健之輔 18
・4年ぶりに母校と柳川訪問 高5 下河 秀行 20
・電話詐欺の話 高18 福山 博彰 22
・2度目の青春―行く人来る人― 高41 下河 敏彦 24
・【学年便り】8回生最後の同期会 高8 池田 孝人 25
・船小屋へ 高14 井上 晴美 26
・俳句会入会のすすめ 斜庵 小野 善睦 27

◆編集長より 28

◆フォトギャラリー&トピックス

- ・創立200周年記念式典を挙行・高木節子（高14）さん写真
- ・杵屋勝国師から母校に紅白梅贈られる
- ・伝習館に自然科学部が東大のイチヨウ植樹
- ・東京同総会ゴルフ同好会コンペの報告

傳習館



東京同窓会会報

力呼びかけが行われた。懇親会に移り、乾杯に立たれたのは参加者最高齢の宮本弘道氏（伝中48回卒、98歳）と高口邦輔氏（伝中56）。宮本さんは最近までゴルフを続けられていたということで、豊饒とされてい

た。
金見美佳さんにご用意いただいた有明海をドローンで撮影した映像を背景に北原白秋の思郷歌「帰去来」を金見さんのリードにより皆で歌い、「帰りなん、いざ柳川」と郷里を偲ぶ。そのあと、懇談でうち解け、新企画、伝習館創立200周年2択クイズで盛り上がった。そして締めには校歌、星座よ輝け、伝えて習う、白雲なびくを一同で高らかに歌って、閉会した。

全員の満足は難しくも、コロナ明けとしては及第点との声もいただいでおり、創立200周年の記念の年に無事開催できたこと、皆様に感謝いたします。
以下の方から賞品を提供いただきました。ご協力ありがとうございました。
(白谷)

- ・岡田哲也様
- ・ギリシャ産赤ワイン12本、エキストラヴァージンオリーブオイル24本
- ・小野アケミ様
- ・プリペイドカード3人分
- ・高木節子様
- ・日本写真家連盟写真集「四季の彩り」5冊

東京同窓会本部より

令和6年 年頭挨拶

同窓生の皆様 明けましておめでとうございます。早いもので令和も6年目となりました。

昨年は久しぶりに東京同窓会総会を開催しました。初めての試みで会場と伝習館高校自然科学部(生物班)をオンラインで繋ぎ「二ホンウナギの生息地と水環境」の研究成果を発表してもらいました。貸しホール&ケータリングの食事も初めてですが如何でしたでしょうか。以前のホテルとは雰囲気の違い戸惑った方もいたかもしれませんが、川下りや有明海の風景を映し出すなど母校や故郷を強く感じた同窓会でした。何はともあれ、200名を超す同窓生の皆様と一堂に会する事ができ“伝習館ここにあり”を感じました。今年は親睦会(総会ではありません)を予定していますので、またお会いしましょう。

伝習館東京同窓会は、①会報の発行…正月 ②総会/親睦会の開催…5月頃 ③若手主体の交流会(以前は修学旅行生との交流会)…秋 この三つを中心に20年間活動してきましたが、今後はより効率的に運営すべく総会の案内と一緒にアンケートをお願いしました。1500名に案内をだしたところメール返信を含め680名から返答(45%)あり、従来通りの総会案内や会報(冊子発行)の希望者は339名でした。実に4名中3名は不要とのこと。このアンケート結果を踏まえて今までのように東京同窓会会員の全員に配布するのは今回の会報24号が最後になります。25号以降は年に一度同じ様な要領で電子書籍(プリントアウトは出来ます)での発行になる予定です。

ウェブサイトの良さは印刷物ではないので追加更新する事ができ…例えば今10月31日として“11/16～11/18丸の内柳川フェア開催”等…随時掲載も可能で便利な面もあると思います。総会や親睦会の案内についても学年幹事会で検討しておりますが、基本的には◇同窓会の行事に参加または返信◇賛助金に協力◇母校や郷里の情報を提供等の方には絶対連絡漏れの無いようにし、逆に無関心な人にはそれなりの対応になるかと思えます。

コロナで滞っていましたが常任幹事の若返りを図っています。昨年の総会開催までの実行委員の働きは傍らで見ても頼もしく感じました。自然科学部と交渉しながら必要な機材と人を集め、総会の新しい形を作り上げていきました。限られた時間と予算なので自前のパソコンやマイク・スピーカーを持ち込み自分たちの力でウェブ中継を成し遂げております。総会の特別会計にもあるように総会で黒字になったのは、久しか振ります。若い人の力/能力をこれからの東京同窓会で発揮してくれることを期待します。

今年は5月に親睦会、秋には交流会で、はたまた同期会で、楽しく元気に過ごしましょう!!

伝習館東京同窓会
会長 白谷政則



今年、5月25日(土) 東京同窓会親睦会を開催

若手幹事が提案した居酒屋風店での親睦会を5月に予定しています。特に行事めいたものはなく、飲食しながら、気軽に交流してもらおうという趣旨です。詳細は伝習館高校東京同窓会ウェブサイトでお知らせします。

◆とき = 令和6年5月25日(土曜日)、17時～19時

◆ところ = ニューぼたん

品川区東五反田1 デュロス五反田ビルB 1 (400人収容)

JR五反田駅東口徒歩2分 案内所隣り

学年幹事会の活動報告

東京同窓会の一年 (R4・11～R5・11)
 伝習館関係

- R4・10～11 会報23号最終調整
- R4・12 会報23号発行
- R5・2/4 (土) 学年幹事会 五反田
 ・名簿整理 (会報23号より逝去・返却)
- ・総会開催：内容・案内方法等々協議
- ・会報改革について：現行の冊子発行はいつまで続けられるか？
- R5・2/5 総会実行委員会：随時開催
 会報改革TF
- R5・5/28 (日) 田町 グランパーク
 伝習館東京同窓会総会開催
- R5・7/1 (土) 実行委員会 五反田
 ・総会案内の返信ハガキ分析
- ・出席者動向
- ・アンケート分析
- ・次回への申し送り
- R5・7/8 (土) 学年幹事会 五反田
- 7/1 実行委員会をふまえて

- ・総会の総括
- ・会計報告
- ・アンケート分析
- ・会報改革について
- ・会報や案内状の配布の範囲について
- R5・10/14 (土) 学年幹事会 五反田
 ・賛助金/決算報告 (9月末までの概算)
- ・R6 伝習館東京同窓会親睦会について
- R6・5月25日 (土) 開催で決定
- ・会報24号進捗状況と会報改革
- ・学年幹事/常任幹事の選出・選定し役員 (会長、副会長) の若返りと会則の改訂について等々

学年幹事会はLINEで呼びかけ対面&Webで協議しています。

県人会関係
 同窓会協力委員会
 R5・9月より活動再開

柳川市関係
 ・柳川フェア



R5・1/13～14 KITTE丸の内

伝習館東京同窓会学年幹事名簿 令和6年1月現在

卒業年次	氏名	卒業年次	氏名	卒業年次	氏名
第2回 (名誉会長)	江崎正直	同上	田中茂利	同上	猿渡由季子 (渡邊)
第4回	荒井健之輔	第20回	高果和登	第37回 (常任幹事)	志牟田美佐
第6回	石橋 修	第21回 (常任幹事)	西原正道	同上	桑山 薫
同上	戸上軍治	同上 (会長)	白谷政則	第38回	金子千恵美
第7回	原田 晃	同上 (編集長)	北島正常	第39回	高橋 徹
第8回	池田孝人	第23回 (常任幹事)	樋口貴美子 (田上)	第40回 (常任幹事)	山田雅彦
同上	一色康子	同上 (常任幹事)	高田健二	同上	藤田昌弘
第10回	内山秀生	第24回	酒見和乎	同上	千釜洋子
同上	永倉素子 (跡部)	第25回	榊田克彦	同上	石橋美和
第11回	永尾弘行	第27回 (常任幹事)	高橋圭介	第41回 (常任幹事)	古賀貴統
第12回	小野アケミ (岸川)	同上	松藤肇成	同上 (常任幹事)	下河敏彦
同上	野上一治	第28回	吉開孝人	同上	鶴 由希子
第13回	尾田義昭	第32回 (常任幹事)	甲斐田幸輝	第42回	弥永邦夫
同上 (副会長)	原田万紗子 (立花)	同上 (常任幹事)	一木亮之介	第44回	清原万知
第14回	高木節子 (堤)	同上 (常任幹事)	大笹健一	第45回	平松千万人・中島
第15回	後藤民子	第33回 (常任幹事)	山田公德	第51回	木村泰輝
第16回 (副会長)	梶島正司	第34回	梅崎達也	第54回	古賀智法
同上	水澤昭子 (田中)	同上	真鍋和裕	第55回	龍 幸弘
第17回	浦川邦憲	第35回 (常任幹事)	池上英次	第63回	佐藤公治
同上	福山雅文	同上	土井啓郁	第65回	吉岡和政
第18回	吉田シヅカ	同上 (常任幹事)	山田江理子	第66回	池田真由
同上	満生英二	同上	大野美佐子 (山田)	第67回	松尾康平
第19回	芹川季代子 (立花)	第36回	指田初代 (藤木)		

総会決算報告

2023 総会 特別会計 (2023/5/28)

収入	会費	2,010,000	参加会員	10,000 × 201 名
	祝儀	40,000	井上淳郎館長	立花民雄会長
	合計	2,050,000		
支出	切手代	118,608	案内状発送	84 × 1412 通
				朝日メディアへ支払
	送金手数料	440		
	印刷代等	170,852	総会案内等印刷	
				朝日メディアへ支払
	送金手数料	440		
	郵送料	55,803	着払い返信はがき	89 × 627 通
	会場費	1,528,890	会場費 (食事代込)	
				デイ・ナイトへ支払
		8,624	会場設備品 (通信機材等)	
		10,000	受付会計用名簿、揭示物等コピー代	
	出演料	50,000	金見美佳さん	
	合計	1,943,657		
収支		106,343		一般会計へ繰り入れ
賛助金		199,000	33 名	一般会計へ繰り入れ

伝習館東京同窓会決算報告 (令和4年～令和5年度)

決算報告 (2022/11/1～2023/10/31)

収入	銀行	304,000	賛助金 42 件 (総会時現金受付含む)
		7	受取利息
	ゆうちょ	1,135,500	賛助金 194 件
		106,343	総会余剰金
	当期収入	1,545,850	
支出	会報発行	993,102	会報 23 号発行費用一式 (発送費用含む)
		16,464	編集委員会資料取り寄せ (原稿依頼) 送料
		1,050	郵便振替用紙送料
	学年幹事会	0	会議室使用料 (駒込文化創造館)
		3,700	コピー代 (学年幹事会 3 回 / 郵送 3 回)
		9,510	送料 (切手代)
	広告費	40,000	伝習館大同窓会 (柳川) 広告費
	手数料	34,142	郵貯振替口座手数料
		8,140	郵便振替通知手数料
		440	銀行振込手数料
	印字サービス料	4,720	郵貯振替用紙印字サービス料
	当期支出	1,111,268	
	当期損益	434,582	
前期繰越		1,231,314	
当期損益		434,582	
次期繰越		1,665,896	

【賛助金ご協力状況報告】

(令和4年11月1日～令和5年10月31日)

10月末日〆切としました。(氏名は←右から順)

回生	氏名
高24	馬淵 邦助
高27	高橋 圭介
高27	江崎 友大
高27	藤木 雄二
高28	吉開 孝人
高31	荒木 亮治
高32	一木 亮之介
高35	石橋 榮市
高35	古賀 ゆかり
高37	浦 能行
高41	古賀 貴統
	匿名
協賛2口	
女40	山田 チテ
高8	一色 康子
高10	大島 喜代子
高10	永倉 素子
高10	古賀 雄次郎
高12	野片 義人
高12	小畑 タエ子
高13	尾田 義昭
高16	沓掛 純次郎
高19	高見 雅代
高20	横山 光治
高20	塩田 佳世
高24	松藤 理恵子
高24	山田 直美
高26	園田 俊朗
高27	松藤 峯成
高29	古賀 宣明
高30	橋爪 政男
高33	梅崎 達也
高41	松嶋 英明
協賛1.5口	
高3	宮崎 八代子
高3	川島 淳子
高4	森本 文子
高5	安藤 祥介
高5	長末 玲子
高8	池田 孝人
高8	高8回生一同
高10	中村 紀子
高11	龍 勝
高12	尾田 常昭
高12	加藤 紘平
高12	松藤 勝美
高14	多田 貞子
高14	井上 晴美
高16	水澤 昭子
高16	井原 重信
高16	松延 日出美
高17	山本 祥子
高17	浦川 邦憲
高18	岩崎 和子
高23	竹内 幸代
高26	野口 佳延
協賛1口	
高3	田島 順次
高3	臼井 ヒロエ
高3	村井 タカ子
高4	梶島 啓之

回生	氏名
高32	加藤 寛樹
高33	河村 佳徳
高33	山田 公德
高35	大野 美佐子
高35	池上 英次
高35	土井 啓郁
高40	山田 雅彦
	匿名
協賛3.5口	
高5	下河 秀行
協賛3口	
中55	武藤 徳一
高8	入部 一郎
高8	永倉 正彦
高8	大村 泰生
高18	江口 吉光
高18	福山 博彰
協賛2.5口	
高1	高石 満之
高4	荒井 健之輔
高4	福山 恭輔
高5	岸 洋子
高6	服部 尚子
高7	田中 健次
高8	川口 融
高10	高島 早苗
高10	松藤 俊正
高10	東 辰子
高12	石田 佳代子
高12	梶島 紘志
高12	江口 清次
高12	横山 正和
高12	小野 アケミ
高14	今村 悦子
高15	一木 克子
高15	後藤 民子
高16	荒巻 明美
高16	金子 修
高16	多田 牧子
高18	十時 理展
高18	満生 英二
高18	川口 秀喜
高19	芹川 季代子
高19	福山 啓治
高19	野口 昇
高19	田中 茂利
高20	東 寛治
高20	田淵 正
高20	梶島 豊子
高21	石橋 一晃
高21	古賀 和人
高21	中島 和彦
高21	千代島 道生
高21	田中 正司
高21	西原 正道
高21	坂井 友実
高21	師村 尚子
高22	竜 美代子
高23	樋口 貴美子
高23	高田 健二
高23	浜 幸助

回生	氏名
協賛50口	
	匿名
協賛25口	
高21	白谷 政則
協賛12口	
高21	石川 俊
協賛10口	
高5	松永 悦子
高6	川口 健寿郎
高9	橋橋 悠紀
高14	高木 節子
高19	龍 春雄
高21	甲木 清
	柳川市役所
協賛8口	
高16	藤吉 憲生
協賛7口	
高41	下河 敏彦
協賛5口	
中48	宮本 弘道
高2	江崎 正直
高2	小野 善睦
高2	平河 智
高4	渡邊 喜亮
高5	岸 栄洋
高5	江口 政司
高6	戸上 軍治
高7	原田 晃
高8	内田 由美子
高8	豊島 黎子
高9	福山 幹子
高10	立花 寛茂
高10	内山 秀生
高11	樋口 守
高12	江崎 照代
高12	野上 一治
高12	原田 健治郎
高13	岡部 彰邦
高13	美和 省三
高14	佐田 悦望
高16	山口 淳子
高16	三小田 雅美
高16	梶島 正司
高17	福山 雅文
高17	跡部 興志
高18	森田 啓悟
高18	江頭 朝子
高18	松藤 由朗
高18	平野 勇
高20	岡 賢二
高20	安永 保
高20	大城 美紀緒
高21	北島 正常
高21	馬淵 茂之
高24	酒見 和平
高27	友清 寛
高27	山口 米春
高30	下川 久尚
高32	田中 修一
高32	濱武 久司
高32	森 昌伸

回生	氏名
高4	野田美奈子
高4	緒方 常子
高5	原 タカ子
高5	満生 利代
高5	中村 裕彦
高5	武田八重子
高5	野口 幹彦
高5	中村 義行
高6	池田 勝嗣
高6	菊次 信子
高6	石橋 清旨
高6	森 橋 一徳
高7	坂口加津代
高8	樋口 誠佑
高8	江口 武
高10	大村 平人
高10	原尻 満子
高11	木下 淑子
高11	城島 孝雄
高11	興田 広巳
高12	深谷 悦子
高12	甲木 宏明
高12	内山 峯生
高13	甲木 久美
高15	内藤千佳子
高15	岩崎 雅子
高15	小河 良充
高16	黒田タエ子
高17	龍 敏彦
高17	中島 功
高18	古賀 行夫
高18	古賀 淑子
高18	緒方敬二郎
高18	吉田シヅカ
高19	正岡 喜則
高20	浦川 直美
高20	井口ちづ子
高20	近藤 敬介
高20	諸藤由美子
高21	鎌田 克子
高21	藤木由美子
高21	古賀 利美
高21	石立 曜子
高21	佐藤 邦恵
高21	江崎 和子
高21	境 とぎ江
高23	坂本 智臣
高23	本村チサ子
高23	光橋 一美
高24	田中 知子
高24	後藤 一誠
高25/26	高田典昭 / 智代美
高30	松本 徳男
高32	森永 明
高32	咲村あかね
高41	太田 千絵
高42	弥永 邦夫
高49	金能 由恵
高49	金見 美佳
協賛 0.75 口	
高23	下田真知子
協賛 0.5 口	
高11	久賀 朝文
高18	細川 正子

(1口 2,000円)

伝習館東京同窓会 賛助金通信欄コメント

高4 渡邊喜亮

白秋関連の秀技な記事ありがとうございます。まず北島さんの「柳河風俗詩から読み解く隆吉の青春」は、新たな解釈も盛り込まれ、特に読み応えがありました。次に「京町一丁目と月光荘」の記事は、龍島さんにして初めて書ける文、小学生にして月光荘のことを知らず、勉強になりました。また、注目で子供のころを過ごした者としても懐かしく、一気に読了。弥永さんの「白秋先輩との出会い」も興味深く拝読しました。

高5 江口政司

同窓会会報ありがとうございます。編集ご苦労様です。面白く大変有意義な記事で感じています。荒井健之輔様の寄稿文は勉強になり、懐かしく思いました。

高14 井上晴美

会報を主人（高10回生、卓球部でインターハイ出場）と拝読。ページを開くや即「卓球女子快挙」が目飛び込んできました。大喜びの主人の笑顔、卓球部で汗をかいていた頃を思い出したようです。私も「事はじめ」で、南校舎の様子を思い出しながらウルウル、十代に戻りました。京町一丁目、白秋関連記事も読み応えありました。

高21 佐藤邦恵

渡邊様の「新制伝習館高校事はじめ」大変楽しく拝読いたしました。歴史の厚み、深さに感じ入りました。

高49 金能由恵

会報ありがとうございます。少しばかりですがお役に立てたら幸いです。

高23 下田真知子

先輩方の柳川弁ニュースもパツパツわかるので笑ってしまいました。銀京デパート行ってきました。辰巳屋のチャンポン場舎のたびに食べに行きました。黒砂糖入りのふなやき母がよく作ってくれました。

高49 金見美佳

会報23号とても読み応えがありました。卓球の吉住さんおめでとーございます。

高16 黒田タエ子
大河ドラマ。鎌倉殿の13人を見て各武士達のゆかりの地、戦地巡りて忙しい一年でした。

高5 松永悦子

いつもお送り頂き有難うございます。懐かしい思い出も送って頂いています。私は持病もなく元気です。お返します。

高18 江口吉光

荒井先輩のふるさと味の。シリーズたのしみに拝読しています。立花うどんの。丸天うどん。は真にふるさと味です。

高35 池上英次

東京同窓会の毎年の格調高い会報は読み応えがあり楽しみにしています。200周年の特集号を楽しみにしています。

高8 樋口誠佑

組織を強化して東京同窓会の隆盛を期待します。

高21 師村尚子

柳川の食べ物・ことは、白秋を見ると懐かしくてたまらない気持ちになります。

中48 宮本弘道

今年2024年には100歳になる予定！
小生の同級生は①甲子園球場②竹下登元首相③私の母校旧京城帝国大学（現ソウル大学）

高6 戸上重治

毎年正月に東京同窓会会報を拝読するのが楽しみです。有難うございます。

高5 岸 榮洋

荒井さんのふるさと味の味で店の様子を知り柳川の町を懐かしんでいます。寒くて家にこもっていますので会報が届き一気に読みました。

高10 高島早苗

荒井さんの懐かしいふるさと味の味シリーズは毎回楽しみました。大変面白く又大変懐かしく読ませていただきました。有難うございました。

高8 入部一郎

令和4年10月履卒中になり現在釧路の専門病院にてリハビリ頑張っています。諸兄弟の健康を祈念します。

高16 純島正司

高16黒田タエ子さんのコメント。同級生の無事確認しています。は嬉しいですね。高13進藤達実さんは京町一丁目のタンちゃんですね。ご無沙汰しております。総会でお会いできたら良いですね。

高24 松藤理恵子

いつも、まさっちゃん。と噂んでいた純島正司先輩の京町一丁目の思い出話には懐かしさのあまり涙がポロリでした。古賀洋品店のおばちゃん是我的母で、この後二人で昔話に耽りました。

高18 吉田シヅカ

旧高田町6つの小学校が2校まで閉校とか。母校江浦小学校も閉校。伝習館はいつまでもそこにあって欲しい。

高16 井原重信

会報送付頂きありがとうございます。

高10 内山秀生

生きている証として今年も送ります。もう少し頑張ってみます。

高24 山田直美

西田様のコメントにつられてペンを取りました。私も早立柳川病院に勤務し夜間定時制で学びました。夜間なのでウトウトだけワイワイと楽しかった事が思い出されます。いつも会報ありがとうございます。

高5 一本克子

新制伝習館高校事始め。興味深く拝読いたしました。南校舎で一年学んだ記憶があります。いつも楽しく拝読しています。お世話様です。

高18 細川正子

毎年正月に送っていただく会報楽しみにしています。ありがとうございます。

高16 井原重信

会報送付頂きありがとうございます。

高30 松本徳男

お世話様です。毎年のお便りの送付ありがとうございます。

高12 野上一治

同窓会運営は日々大変だと思っていました。先日学年幹事会に飛び入りで参加し、改めてそう思いました。お世話様です。

高14 高木節子

人間国宝・菅原謙國さんが2月に逝かれました。その前の9月、菅原のみやま市民センターで梅落し公演が行われ、元氣な様子。その半年後、突然のことゆえ驚いています。伝習館の1年次、席を並べた勝國（幸田国一）さん。これまでのご指導に感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。

高16 多田牧子

京都に転居いたしましたので東京同窓会から抜けさせていたのですが、これまでありがとうございます。

高21 境 とき江

会報を送っていただくようになり数年経ちますが、伝習館の歴史等々知ることができ、懐かしくもあり毎回来しく読んでおります。

高12 小畑タエ子

役員の皆様にはいつもお世話になります。今後共どうぞよろしくお願ひします。

高13 岡部彰邦

先輩同輩後輩皆元氣にそれぞれの人生を楽しみましょう！

高16 沓掛純次郎

会報が送られて来るのと新しい年になるんだという実感がわいてきます。編集部の皆様ありがとうございます。

白谷政則会長

今節は皆様からの賛助金が前年を上回り、目標に達しました。次号より同窓会会報は電子化となりますが、今後ともご支援のほど、よろしくお願ひいたします。

※東京同窓会の皆さん、この通信欄コメントに近況などお寄せ下さい。

新制伝習館高校
事はじめ(その2)

高4 渡邊 喜亮

伝習館文化の香り

新制高校第一期生として、憧れの伝習館に入学したはいいが、一学期早々に、船小屋遠足があった。何だ！遠足とは・あるうことか、小学生じゃあるまいし、船小屋とは！と散々の評判である。ところが、しばらくして、立て続けに映画館で名画を見ることになり、今度は「学校カラ連レテッテモロテ映画見ラルゲナバイ！ビックリジャン」と、生徒たちはみな大喜びで歓迎した。

すこし前の旧制中学・高女時代には、映画館出入りなど厳禁だったので、誰もが、学校主催の映画鑑賞があるなど、考えもしなかったと思う。

入学した昭和25年(1950年)は、朝鮮戦争が勃発して、吉田内閣がレッドパージを敢行するなど、世間がさわがしくなっていた年である。国宝金閣寺の消失などもあった。サンフランシスコ平和条約(講和条約)の発効で、連合国の占領から独立を果たす昭和27年4月よりまだだいぶ前の頃である。

この時代背景のもと、俗悪、過激な映画や出版物が氾濫するなか、健全な情操教育・芸術教育の一環として、名画鑑賞が企画されたのであろう。

映画館は、その頃、柳河界限に、「柳

川国際劇場」、「白秋座」、「柳河映画劇場(柳映)」と3館もあったこと、ご記憶の方は少ないかもしれない。

柳川国際劇場は、辻町から昭代の方へ入った片原町の一角にあった。

白秋座は、高畑公園の欄干橋の道路を隔てた真向かい、以前は大天地であったが、経営者が代わり名を変えた。柳映は、京町の四つ角を、細工町とは反対の北の方に曲がった旭町の先、横山町にあり、3館のうち一番古い、いかにもレトロな劇場であった。子供のころは、旅回りの一座が巡業に来て、股旅ものなどを演ずる大衆演劇専門の劇場だった。映画は子供のころ親戚の誰かに連れられて見た「支那の夜」(長谷川一夫、李香蘭主演)がかすかに記憶に残っている。

同期の椋鳥啓之君の話では、沖ノ端の旧魚市場の近くにも、嘗て小ぶりの劇場があったようだが、いつの間にか廃業したという。

映画鑑賞会は、主として、柳川国際劇場、時折、白秋座という常設映画館で開催されたのであった。映画館絶滅の現在、不思議な感じである。

まず、一年生の昭和25年(1950年)には、入学早々「ペンは偽らず」(地域住民が暴力団と対決する日本映画)を見に行った。その後の鑑賞会では「泣きぬれた天使」(戦時下のパリの青春群像を描いたフランス映画)、「大いなる遺産」(少年の行為からのちに莫大な財産が舞い込む英米合作)、「聖パンサン」(十七世紀、栄達を望まず貧者の救済に当たった高僧の物語、フランス映画)な

どの名画が選ばれた。

二年生になってからは、「栄光への序曲」(田舎の音楽少年が名演奏家になるまでのフランス映画)、「黒水仙」(ヒマラヤの山地に招かれた尼僧たちの葛藤を描くイギリス映画)、「メニューイン」(アメリカの世界的バイオリニスト、メニューインの物語、アメリカ映画)、日本映画では「源氏物語」(大映十周年記念の超大作)であった。

三年生では、「風雪二十年」(二六事件を扱った日本映画)、「苦い米」(イタリアの社会派映画)、「白雪姫」(グリム童話のディズニー映画)、「ホフマン物語」(オッフェンバッハのオペラを映画化、イギリス映画)、「原爆の子」(原爆生き残りの女性教師と子供たちの物語)などがある。

それぞれ時代を超えた素晴らしい名作揃いで、深い感動を覚えた。

このような名画鑑賞の企画を担当した当時の先生たちの先見性と包容力には、心底感心するばかりである。

さらには、ソ連初の天然色映画(カラー映画のこと)「石の花」や「シベリア物語」、それにイギリス映画の「赤い靴」など異色の映画は、学校行事というより、前号(その一)の部活動で述べた映画研究部(映研部)の主催であったはずだが、わがノートに記録がないので、残念ながら明言することができない。

ただ、映研主催も、いわば学校主催でもあり、いちいち区別する必要もないのではあるが・・・。

ハリウッド映画全盛時代の名作「イブ

の総べて」「サンセット大通り」「欲望という名の電車」などは、確かに映研主催で観たのであった。

また、「青い山脈」は忘れられない。何度もしメイクされた石坂洋二郎原作の映画であるが、やはりこの時の第一作、今井正監督、原節子、池辺良主演映画が秀抜であった。男女共学となった戦後の開放的社会の実相を明るく描いた青春の賛歌であり、心はずむような映画であった。西条八十作詞、服部良一作曲の主題歌「青い山脈」は映画を離れて国民的愛唱歌としてあとあとまで歌い継がれた。古い世代としては、真に懐かしい限りである。

伝習館映研部の由来については、はっきりしないが、何年前には、映研部で機関誌まで発行していたことがあるようで、非常な熱意で運営されていた文化部のひとつであったことがうかがえる。

ただ、下級生の頃は、専ら映画を観るだけで、映画館で上映される予定の名画を選別し、映画館承認の割引券を発行するなどという先輩たちの映研部運営には殆ど関与していなかった。時折の映画合評会などには積極的に参加し親睦を深める・・・と云うようなことであつたと思ふ。中途で退部したので、それ以上のことはよくわからない。

映研部主催の映画はまだほかにもあつたが、それとは別に、クラスの友人たちとは、連立つてよく映画を見にいったことでもあり、はたして映研部主催であつたかどうか、判然としないまま記す。

日本映画では、今井正監督の「どっこい生きてる」、小津安二郎の「麦秋」、黒沢明の「羅生門」。また、同じ黒沢明監督の「白痴」、これは云わずと知れたドストエフスキー原作である。

日本初の総天然色映画として話題となった、木下恵介監督、高峰秀子主演の「カルメン故郷に帰る」もこのころであった。

ほかにも井伏鱒二原作の「本日休診」、大仏次郎の「帰郷」、石川達三の「風にそよぐ葎」などの文芸邦画はあれこれ相当数に上る。

フランス映画では、スタンダール原作の「パルムの僧院」、モロッコの外人部隊に身を投じた男の物語「外人部隊」、ゾラの翻案「獣人」、ゲーテの戯曲「ファウストを下敷きにしたルネ・クレール監督の「悪魔の美しさ」、マルセル・カルネ監督の「港のマリー」、ギリシャの風刺劇に似た「女だけの都」、さらにはイタリヤ映画の「自転車泥棒」「靴磨き」などである。

また、福岡の積文館に本を買いに行ったついでに観たイギリス映画「アンナカレーニナ」には、主演ビビアン・リーの美貌とストーリーの哀しさに、格別心を動かされた。トルストイの原作とはちょっと違う感じもあったが、原作以上のインパクトがあった。

アメリカ超大作映画「風と共に去りぬ」もビビアン・リー主演で、これは伝習館を卒業してから見たようである。「・・・今は歴史に記されるだけの儚い思い出となった古き良き時代の大きいなる文

化は風と共に去りぬ・・・」の冒頭字幕に始まる忘れられない名作ドラマであった。これを契機に原作を読み、その後、時を隔てて映画は幾度か見て、感激を新たにしていた記憶がある。

これらの映画には、卒業生の皆さんにも、それぞれ心当たりがあり、多感な青春時代の精神の彷徨に思いを馳せることになるのではないだろうか。

名作と思しきものには、いっばしの映画評を書き連ねていて、改めて読んでみると、未熟ではあるが、懐かしく、昔の走馬灯のように次々とよみがえってくる。いちに紹介したいところでもあるが、専門家でもない者の個人的映画評など、本人だけの自己満足でしかなく、その愚は避けることにする・・・。

次に、音楽について思い起こすと、一年生の終わりのころ、昭和26年（1951年）3月に、柳川国際劇場で、日本交響楽団（日響）の演奏会が開催された。

日響はしばらくしてNHK交響楽団に衣替えをした国内最高レベルの楽団であったが、柳河町の演奏会では、当然フルオーケストラというわけにはいかず、たぶん30人前後のいわゆる一管編成程度の規模だったと思う。それでも、生演奏の圧倒的迫力に、皆感動したものだ。

おそらく、演奏会は、どこかの文化活動の一環であったと思われるが、残念ながら記憶にない。西日本新聞社、NHK、福岡県教育委員会、柳川市役所等に問い合わせたり、あれこれ調べたりしてみたがわからなかった。

昭和27年になると、冬休みの後、南校舎の講堂で、「柳川四重奏団」の名で結成された地元楽団の演奏会が開催された。バイオリンの高椋操さんを中心とする楽団で、ハイドンの交響曲「驚愕」を弦楽四重奏で演奏したのであった。交響曲の迫力はなかったにしても、弦楽のすばらしいアンサンブルの妙、特に有名な第二章は未だに耳に残っているような気がする。

70年も前の柳川地方に、クラシックの楽団があったということは、今思い返すと驚くべきことであった。

この曲についてはもう一つ、その頃の思い出があり、柳城中学で美術担当の吉川先生が、近所だったので、わが家で、レコードコンサートを開かれた時期があった。後に、赤坂ニューラテンクオーターの名花と謳われた城内の服部尚子さんなど、先生のかつての教え子たちが聴きにきていた。

レコードは先生の趣味で集められたもので、チャイコフスキー、ムソルグスキー、ポロディンなどロシアの作曲家の曲が多かったが、ベートーベン、シューマンその他、古典派、ロマン派の楽曲もあり、その時に何度か選曲されたハイドンの曲でもあった。クラシック音楽聴き初めし頃の一曲であった。

高名なソプラノ歌手、三宅春恵女史の白秋童謡やオペラ「ラ・トラビアタ」（椿姫）の aria などのリサイタルもこの頃だったように思う。

昭和27年4月には、周辺5村を併合し

て柳川市が誕生し、2月に完成したばかりの伝習館体育館で盛大な市制祝賀会が開催されている。

また11月には、この新体育館で、伝習館の行事として、火野葦平、村松梢風、奥野信太郎三氏による文芸講演会が企画された。

北九州出身の芥川賞受賞作家でありその選考委員でもあった火野葦平氏は、「麦と兵隊」などの著書があり、講演で、自分の従軍経験も加え中国でのことを話した。同じく作家の村松梢風氏も、郭沫若、郁達夫、田漢等との交流があり、嘗ての、いわゆる「支那通」のひとりであったことから、当時話題性のある「中国」にはなすが及んだ。奥野信太郎氏は中国文学の専門家なのに、お化けの話に終始したのはおかしかった。



中央の文化からは疎外されたような柳川地方で、よくこのような文化的恩恵に与れたものと、感慨ひとしおである。映画にしても、欧米の文芸名作が多数上映され、映画はまさしく芸術であった。どちらかと云えば、娯楽としてとらえる現在の風潮から、今時の高校には、映画研究部などというものは見当たらないのではなからうか。

運動部の大活躍

草創期、伝習館高校の運動部に目を転ずると、それは、輝かしい成果に彩られた時期だったといえよう。まず、水泳部の活躍である。

昭和26年（1951年）、伝習館水泳



水泳部全国制覇祝賀会

排球部（バレー部）



全盛時代を築いた部員達（前列中央に中島時夫先生）

部は、県大会で優勝、次いで、奈良県で行われた西部高校水上競技大会では、二位以下に圧倒的点数をつけて、ここでも優勝した。さらに東部校との決勝戦でも勝利を収め、みごと全国優勝を果たしたのであった。この競技については、詳しい記事が、会報に二度も掲載されているので、ここでは要点のみ紹介し、関連したことを少し加筆しておく。

まず、西部大会の優勝は、横田宣明選手の400メートル一位、また石橋明選手による大活躍がその原動力となっているが、一年生の古賀学選手の100メートル

ル三位、200メートル二位と2種目に亘る健闘も寄与している。更に、三年生の酒井清行選手を加えた最後の800メートルリレーで一位となり、優勝の栄冠を手にしたのであった。

西部大会の成果をうけて、東部の優勝校、静岡県、伊東高校との決戦に臨むことになったが、会場は、東京、千駄ヶ谷の神宮外苑プールであった。

つい先ごろ、東京オリンピックが開催された新国立競技場の道路を隔てた目の前にあったところである。いまは、確か、ホテルが変わってしまい、往年の赫々たる歴史に彩られてきたプールはあ

とくともなくなつてしまつた。

決勝戦は、途中まで27対27で大接戦、最後の800メートルリレーを制して、ここに、全国制覇を成し遂げたのであった。三年生を中核としたチームであったので、これは、伝習館高校というより、旧制中学時代に3年間の練習を重ねてきた中学伝習館の快挙といふべきかもしれない。

その後についても、活躍のチャンスはあったようで、時の運で、西部大会を制覇することはできなかったが、当時の水泳部長、緒方勇雄先生の回想が残されている。概要を引用しておく。「・・・この優勝の2年後、世界十位の中に入るまでに成長した古賀のほか、平泳と背泳に迄選手が揃つて、余裕をもって優勝のはずが、背泳のアクシデントで優勝を逃し二位となつてしまつた。一位と二位は大違ひであった。その後も、多くの優秀な選手は出たが、散発的であつた・・・」

翌年、昭和27年（1952年）になると、当時、排球部といつていたバレーボールの第七回国民体育大会（国体）準優勝がある。

恒例の秋の祭典は、バレーボールが山形市で実施され、高校男子は山形市宮コートが選ばれた。屋外のコートで、まだ九人制のころである。

伝習館は、二回戦から出場した初戦で、岡山東高を2-0で難なく破り、準決勝の北海道、旭川西高戦まですべて完勝。強豪藤沢高校との決勝戦に臨んだ。雨が降り、絶好のコンディションとはいえなかったが、結果は、善戦虚しく、24-22、24-22と2セットとも接戦を制することができなかった。

しかし、この準優勝の栄誉は伝習館続く限り顕彰されるべきものである。

今は、自宅療養中で顔を見せないが、現在も東京同窓会の会員である野田久人君など高四卒の排球部員で編成されたチームが大活躍したのである。記念

写真を見ると、野田選手のほか、副島敏治、城島明、石川勉、木下清爾、中野清利、高巢恭次、木下和夫、中村一宏など名選手たちが並んでいる。

実は、前年にも、九州高校バレーボール大会では、鹿児島高に敗退したものの準優勝している。選手は、翌年国体準優勝の時とほぼ同じ、当時二年生であつたので、継続して実力を付けてきたことがわかる。

女子は、この同じ昭和26年、同じ九州大会で見事優勝している。九州全地域から選抜されてきた10校によるリーグ戦を勝ち上がり、決勝では熊本第一高校（現、第一学院高校）を2-0で破り、九州制覇を果たした。

女子バレーは、金子博子（現在、倉本姓）選手のほか梅崎雪江、松藤寿子、野田澄江等の選手たちが活躍したチームだった。金子選手は日本女子体育大学に進学し、大学生選抜にも選手として出場するなど活躍を続けた。

バレーボールのこのような成果は、先の水泳の三回卒にたいして、男女とも、四回卒によつて成し遂げられている。

これは、昭和24年に伝習館に赴任して以来、まさに、孜々として排球部育成に当たつてこられた体育教師の中島時夫先生のお蔭である・・・と選手たちは挙つて述べている。チーム結成以来、3年間に亘る猛練習によつて花開いた男女の輝かしい努力の成果であつた。

昭和27年には、男子卓球も国体出場を果たしている。

設備も道具もほとんど整わない時代

に、硬式野球部は、夏の甲子園を目指す全国高校野球大会で、三度にわたり、県決勝まで進んだ実績がある。

昭和26年の甲子園大会では、県予選で順調に勝ち上がったものの、西田川高校との準決勝戦で、日没再試合を戦った不利な条件も加わり、決勝戦では宿敵小倉高校に7-10で敗退し、甲子園への夢は消えた。

翌27年には、安部・藤根のバッテリーを擁して善戦を続け、決勝戦の相手は三池高校であった。大牟田と柳川、近くて、練習試合の相手でもあり、勝機十分との見込みで臨んだが、これも、12-16で負け、ついに甲子園の土をふむことは叶わなかった。

その時、チームのキャプテンだった高口学君は、一年から三年生までレギュラー選手を続け、卒業後、明治大学に進学した。当時、学生スポーツの花形であり人気抜群の東京六大学リーグで活躍し、打率ベストテンに連なるなど高い評価をうけた。実業団の日本通運に就職し、後、幹部社員となっていたが、もう20年以上も前に病没してしまった。

伝習館野球部について忘れてはならないのが、その前、小倉高校の全盛期に、伝習館が対等に立ち向かったことである。小倉高校なかりせば、伝習館も甲子園出場を果たし、相当の成績を取めた可能性があったのである。

小倉の福嶋一雄投手は、昭和23年甲子園で一回戦から優勝迄、全5試合45イニング無失点完封という驚異的大記録を打ち立て、小倉高校を甲子園二年連続優勝

に導いた野球史にその名を残す名投手であった。甲子園の土を母校に持ち帰った最初の選手としても記憶されている。また、東京六大学でも早大のエースとして活躍し、その後、野球殿堂入りしている伝説の野球人である。

それと一歩も譲らず拮抗していたのが、伝習館の山田善作投手であり、昭和23年の県予選の決勝で、小倉高校と対戦したのであった。

当時の野球部長、小柳親先生の後日談として、「小倉の豊楽園球場で戦った決勝戦は、延長14回、惜しくも1-0で負け、甲子園行きに涙を吞んだが、ホントはこの時が一番のチャンスだった。なにしろ、山田は、野球マガジンで、全国投手三羽鳥として、小倉の福嶋、西京商の北村、伝習館の山田と大きく記事になったほどの投手だった・・・」と述べられている。その後、八幡製鉄での活躍もあったが、体を壊し第一線からは退くことになったと聞いている。家が恵美須町の西方寺そばの本店で、前を通るたびに、憧れの大投手の顔を思い出していた。中学が一時伝習館に間借りしていたので、みんなで練習はよく見ていた。

内田捕手との名コンビぶりは記憶に残っている。

最後にもう一つ、特筆しなければならぬ運動部の活躍がある。

昭和28年(1953年)のことになるが、全国高校陸上競技大会(全国高校総合体育大会の前身、インターハイ)で、伝習館陸上部女子チームがみごと全国優勝したことである。これは、城島祥子、岩丸絹子、古川美津江、福山さくらの4選手が成し遂げたのであった。

この優勝についてもすでに会報に記事があるので、ここでは要点のみとし、その後の活躍について、付記しておきたい。

その年、夏の暑い8月、伝習館女子陸上チームは、全校の期待を胸に、全国大会の開催地であった横浜市「三ツ沢公園陸上競技場」に赴いたのであった。

結果は、期待に違わず、城島選手が100メートルで一位、また、岩丸絹子選手の100メートル五位、200メートル六位、福山さくら選手の走り幅跳び二位、と入賞を果たした。次いで、古川美津江選手を加えた4人による400メートルリレーで一位に輝き、堂々、総合優勝という栄冠を手にした。

女子陸上は、この後の活躍にも見るべきものがあり、福山さくらさんは、昭和29年の札幌国体にも出場、走り幅跳び一位、熊本でのインターハイでは、走り幅跳び二位などの成績を収めている。昭和30年には、山形県、酒田市でのインターハイでは、走り幅跳び一位、100メートル二位と、共に素晴らしい成績を残している。と云うことは、先のインターハイ優勝の時、まだ一年生で出場したことになり、その才能の豊かさを物語っている。伝習館卒業後は東京教育大(現在の筑波大学)に進み、アジアオリンピックにも出場している。

なお、当時の陸上競技部を総括して述べた石橋國男先生の言によれば、この昭和28年から数年間が、伝習館女子陸上の

黄金時代であり、全国優勝の後にも、県優勝は8年連続、九州、四国大会でも何回か優勝するなど優れた成果を残してい

女子陸上競技部



昭和28年全国大会優勝



市内を優勝パレード 立石部長の姿が見える

る、ということである。



以上、伝習館高校創生期のスポーツを展望するとき、昭和26年は、高三回卒中心の水泳、27年は、高四回卒中心バレーボール、28年には、高五回卒中心の陸上・と三学年にわたって連続して全国優勝、準優勝、優勝という金字塔を打ち立てたのであり、この偉業は忘れられない。

このような快挙はおそらくもう二度と達成されることはないであろう。

社会科学研究会と生徒会

入学した当時、社会科学研究会（社研）が校内を風靡、席卷した感があつた。数ある課外活動のなかにあつて、完全に他を圧していたのである。

社研は文化部に属さず、この年頃に特有の「反抗する気質」というか反骨精神？がしからしむるところではあるが、みずから研究会と称し、学校の制約、規範から極力自由でありたいという意図で運営されていた。

新制中学3年間の義務教育を終えて、高等学校という新天地で、自由に、新しい分野に挑戦したいと願う新入生を引き付けるに十分な組織であつた。

そこで、社研の最初の会合には教室いっぱいの新入生が参加したのである。

入学早々同じ一年八組で意気投合した三人組のひとり、古賀誠君の記事を同期会誌「悠悠」から抜粋しておく。

「入学早々、私は、新入生歓迎会の演説にすっかり魅せられ・・・同じクラスの渡邊喜亮、川津嵩の両君と語らって早速

社研に入会した。当時の社研は二年生が中心となつて運営されていた。二年生会

員には、廣松渉、白井朗、宮川謙三の各先輩を核として、岡崎虎美、龍満男、阿津坂健児、塩塚哲朗、下川時夫、川原侘などの方々がおられた。新入会員には、われわれ3人のほか、坂田常穂、津村守、石川裕士、その他の諸兄姉がいた。・・・私は社研によつて社会への目を開かせてもらった。先輩たちの話を目から鱗が落ちる思いで聞いた。・・・社

研で廣松さんや白井さんに巡り会えたことは私の人生最大の幸運であつた。・・・廣松さんからは、ある日、3人で京町の裏通りにあつた店で焼き芋をおごつてもらつたことがあるが、これも懐かしい思い出の一つである。・・・」

しかし、真に残念だつたのは、共に入会した学友たちが次々に脱落し、後々まで活動し続けた同期のメンバーがわずかに4～5人に減つてしまつたことであつた。なかには、女性徒のHさんの様に、親に叱責され退会したという例も出てきた。社研で、日常的に直接指導を受けたのは、主として、廣松、白井、宮川の3

先輩であつた。当時、一学年上に、このような先輩たちが居たということが、信じられない気がしてくる。

ただただ、先輩たちの驥尾^{きび}に付して成長していったように思う。

廣松渉さんについては、この会報にもたびたび紹介されているので、ご存じの同窓生は多い筈である。ただ、これはあまり知られていないが、数学や物理学の分野にも関心があり、数学上の歴史的難

問の話や相対性理論さらには理論物理の統一場の理論のことなど、

滔々と解説していたことを思い出す。ハイゼンベルクの不確定性原理にまで言及するなど、とにかく天才的人物であつた。

私自身、廣松さんには、少し後になるが、哲学的諸問題につきななどか質問をし、ご存じの方はわかる、万年筆の太い大きな字で書き急いだ、枠からはみだすような10枚から時に20枚にも達する返事を頂戴したこと、度々に及んだ。その後、論文作成に使うので残つていれば返すように云われ、返却したが・・・。

また、これも、社研の伝統と連帯のすばらしさ、私が大学生になつてからのことだが、伝習館の廣松さんの学年の何人かで、学期休みに、カントの「プロレゴメナ」の読書会をやるので、渡邊君もどうだと誘われ、喜んで参加したことも懐かしい思い出である。これについてはまた書く機会があると思う。

宮川謙三さんは、九大の経済学部に進み、大学院卒業後も学内に留まり、経済学部教授に就任。農業経済、アジア経済分析等、学究の徒として過ごし、経済学部長にも就任された由。このように、もっぱら、アカデミズムの城を守り続けた至極真面目な兄貴分であつた。伝習館時代には、凶々しくも、城内、坂本町の自宅まで押しかけて、教えをうけたものがある。



廣松 渉

宮川一家は東京から疎開してきていたが、宮川さんの兄上が有名な社研の星だつた宮川武寿さんである。廣松さんや白井さん達は、東京から転校してきたこの三学年上の宮川武寿さんに多大な感化を受け、宮川さんやその盟友龍昇吉さん（後年、同志社大の教授）たちの話についていくために猛烈読書漬けの生活を送つたと聞いた。岩波書店刊行「廣松渉哲学小品集」（小林昌人編）の「読書遍歴」の中で、廣松さんはその頃のことを回想している。

白井朗さんは、伝習館退学の廣松さんと共にGHQ（連合軍司令部）批判のビラ配りで処分を受けたが、「停学」だったので、のち復学。父上が九大の教授、母上は杉森女学園の校長の任にあり、この両親からは当時一方ならぬ叱責を受けたと聞いた。

伝習館卒業後は、法政大学に進学するも、学業を傍らに、新左翼の旗手として頭角を現し、26歳で革共同政治局員「前進」の編集長に就任。その後、破防法の個人適用により、非合法活動に転換を余儀なくされたということであつた。

実は、2006年の東京同窓会で、思ひもかけず、何十年ぶりに白井さんと再会することになり、後日いくつかの論文や「20世紀の民族と革命」と題する大冊の著作を送つていただき、その論考の見事さには感服した。

このあたらしい機縁に、社研時代の学友古賀誠君の上京を待つて、荒井君も交え、白井さん、渡邊と、上野近くのおでん屋で四人懇談の会を重ねることにな

り、これは4〜5回続いた。その後しばらくして逝去されたが、「・・・いわば、草莽の士として、時代の規範に異を唱え、体制改革に身を挺してきた白井さんの志と行動は、一つの時代を画すことになった・・・」と、この同窓会会報15号で、哀悼の辞を述べたのであった。

また、白井さんについては、その著作を柳川市図書館に置くように何度か提案したにもかかわらず、実現しなかった苦しい思い出も残っている。

ほかに、龍満男さんなどの諸先輩や才女塚本好子さんにもいろいろ懇切な指導をうけたが、なにしろかなり昔のこと、正確を期しえないので省略させていただく。

社研では、テキストを使った読書会がひらかれ、最初はマルクスの「賃労働と資本」であった。これは、廣松さん退学後も、白井、宮川さんたちの講義テキストとして継続することとなった。

また、ときには懇話形式で、政治、経済、国際問題あるいは哲学についての議論に、大きな刺激を受けて、読書に没頭した。

皆、大体同じような本を読んだので、その主な書名だけ挙げておくと、宮川実「経済学入門」、エンゲルス「空想から科学へ」、河上肇の「貧乏物語」「経済原論」。三浦つとむ「哲学入門」、同「弁証法を如何に学ぶか」などである。

そのほかにもあれこれ相当の乱読を重ねた。しかし、当時の能力では、とても十分には理解できず、読了しえなかった本もかなりあったように思う。自ら顧み

て、意欲のみ余って、さして身に着かなかったと云わざるを得ない。

当時、社研の生徒たちは、偏った読書ばかりしていたので、思想的に左傾化するのはやむを得ないことであった。しかし二年、三年になって、私自身に関していえば、マルキシズムとは対極にある西田幾多郎を頂点とする京都学派の哲学書を読むようになって、だいぶ変わってきた自覚がある。これは、自らも京都大学在学中、西田哲学の洗礼を受けられた古

沢芳吉先生の教導によるものであった。なお、廣松、白井先輩たちに鼓舞されて、社研のメンバーは、生徒会にも積極的に参画していくことになる。

廣松さんは、その類まれなる弁舌を以て一年三学期の生徒会総務となり、白井さんが次の二年一学期に就き、下級生にも引き継ぐことを期待していた。

そこで、われわれも頑張ろうということで、不肖、渡邊が一年三学期の生徒会総務となった。二学年上から病気で同学年になったが、前期の総務であった池上正則さんや社研の古賀、川津君たちに薦められて立候補したのであった。しかし、実のところ、月とすっぽんの謂いもあるように、先輩達とはまったく比較にもならないのである。影響力もまた存在感も段違いであったと思う。

つぎの二年一学期には古賀君とやはり社研の坂田常徳君の二人が総務に、二期には川津君が総務を務めた。この時は、みんなで各学年各クラスを回り、応援にだいぶ力を入れたのであった。その後については、適当な人物もなく、何度

か社研にも顔を出したところのある松永はま子さんを応援することにした。

当時の総務の仕事そのものには、他の年代と特に変わったことはなかったであろうが、ひたすら、生徒会や部活動の活性化を目指し、あれこれ苦心し活動していたと思う。

後年、伝習館の教職に就いた島田豊秋君による先輩たちの頃の回想があるが、そのあともこれを継承してきたのであった。

「・・・私が学生であった頃も、生徒会の活動は盛んで、集会では熱のこもった話し合いがもたれていました。堂々と意見を述べ合う先輩たちの姿に驚くと共に感動し、向上への意欲をかき立てられたことを思い出します。私の経験では生徒会等の活動が盛んな時は、学校全体に活気が生まれます。生徒たちの目が輝いてきます。良い意味で、自主性が生まれ、自立心も養われます・・・」

坂田君は、数年前亡くなった。それまでは、産婦人科医師として24時間勤務といいながら、繰り返し合わせて、東京同窓会や同期会には何度か出席し、時折は、銀座、新橋へと二次会三次会に繰り出し羽目を外したものだ。松永さんは、ニッポン放送（フジテレビに継承）勤務中に急逝してしまっ

た。社研では、1年下には、前述の塚本好子さんの妹、塚本郁子さん（途中で東京に転校してお茶大に進学）など何人かの新会員が入会してきたが、下級生の指導があまりできなかったことが心残りであった。

ただ、当初からの3人は、社研に留まり続け、曲がりなりにも社研の灯はともし続けてきたのであったが、卒業後、廣松、白井、宮川先輩たちが、揃って社研卒にふさわしい道に進んだのに対し、それも実現できなかった。

川津君は、九大経済から西日本新聞に入社し、広告部門で活躍し、渡邊は、早大政経から東京電力に入社、国際財務、原子力などの業務に従事することになり、共に、社研卒とは思えない道に進んでしまった。他方、古賀君は、早大政経卒業一旦は法務省のキャリアー官僚となったが、のち弁護士に転じて、古賀君だけは、わずかに社会派弁護士としての片鱗を見ることができたと云えよう。

ただ、社研時代のマルクスからはじまる大量の読書は、大学受験には問題であったが、その後の社会生活には有益であったと、今は信じている。また、青春時代特有の「個の自覚」あるいは「自己の確立」を模索した精神のルネサンスともいふべき経験は、決して無駄ではなかったの思いがある。



当時、伝習館には、社会科学研究会という、素晴らしい学びの組織があったことを記憶に留めていただきたいと思う。ただ、先輩から受理、継承したものを、発展的に後輩に伝えていくという本来の使命をわれわれが果たせなかったことには、深い反省の念が消えることなく残っている。（2021年10月記）

—— 次回へつづく ——

先輩・後輩より

フータンヌル力はなしII
釣りと自転車の履歴書

高2 斜庵・小野 善睦

故郷やそのかの子ら
皆老いて遠きに

何ぞ寄る童ごころ 白秋

老人の二人暮らしなのに何故か自転車が4台もある。

八十五歳の四月、自動車運転免許を返上した。行動範囲が狭まり、少々不便になったのを解消出来るかと電動アシスト自転車なるものを購入した。

でも、ホームセンターなどで購入する大型の商品が運べなくなり、不便を感じ、ネット販売を使うようにしたが、実際、手に取ってみると欠陥のある商品だったりして、失敗もある。

八十八歳。妻が日常の買い物の量が多い時に自転車で乗れなくなったというので、三輪自転車を購入した。安易に考えていたが、運転が難しい。家の前の6m道路で、近所の人の「この爺さん何をやってるのだろう？」という冷ややかな視線をひしひしと感じながら、3日間位練習をしてやっと乗れるようになった。



妻はまだ乗れない。
釣り事はじめ

小学校低学年の頃、母が隣のツギちゃんあんにゃんに小遣いと実費を渡してお願いしたらしく、ある日我が家にフナ釣り道具一式が来た。竿の長さ2m位。糸とウキと釣り針。かっこいい。ツギちゃんに餌の付け方、ウキの動きに合わせた釣竿の上げ方など一応の説明を受けた。次の日の早朝、期待に胸膨らませて、い

そいと釣竿を担いで、二人で当時は三橋村の枝光方面へ出かけた。フナ釣りであるが、なかなか釣れない。場所をあちこち替えても、ウキさえも全く動かない有様だ。エサを替えても同じ。段々、暑くなってくる。腹が減ってくる。とうとう、3時頃になりツギちゃんが「今日はもう帰ろう！」と、とほとほと帰路についた。猛烈に腹が空いてきた。枝光の小坪橋の傍の農家の庭先に、ヨシズをかけた食堂があった。かき氷も欲しかったが、何はともあれ遅い昼食である。貝の入ったうどんが来た。なんと！その美味かったこと、浅利貝より小さい細長い貝がいっぱい入っていて、一気に全部、つゆ一滴も残さず平らげた。

80年近く過ぎた今でもあの味は覚えている。あんな美味しいうどんにはそれ以後あり付けない。貝の名前は不確かだが「カラスゲー」だったかな？ 帰郷すると、朝飯は同期生の藤丸君が創業した「立花うどん」の素うどんとおにぎりが美味しく、定番と決めているがあの枝光のうどんには適わない。

ツギちゃんは池田次男が正規の名前である。近所ではみんな姓でなく名前と呼ぶ。兄弟が居るし、同姓も多いからかな？ 学校では、尊称順に並べると様子さん・君・しゃん、ツチ・ツペ・呼び捨て、となる。小野様と呼ばれた事は滅多にない。永井医院や町野医院で薬を貰う時に丁寧な看護婦さんに呼ばれる位である。

あ、ただ一人伝習館で小野様と呼んでくれる同級生が居た、H君である。それ

も試験の時だけ。試験の時間という何故か必ず私の後ろの席にH君が居た。試験が始まり暫く経つと「小野様！小野様！」と小声でささやく。これは答えを書いた答案用紙を見せろ！という合図である。腕の間から机の右下に用紙をずらして後ろの席に見える様にする。試験が終わると「小野ちゃん、もう少しヨウ見えるゴツしてヨ！」と怒る。この時は、様でなくちゃんである。

H君はスチールギター演奏の特技があり、卒業後、ハワイアン音楽をラジオで放送したりした。会社を経営し、技術開発をして特許を取り、成功した。他の同期生からは、小野君と小野ちゃんが多かった。

小野ちゃん即ち小野斜庵である。小野ツチ・小野ツペも時々あった。あだ名は「キキンドシノカマキリ」。

伝習館に入ると同性が多い人は姓でなく名で呼んだ。なんせ、古賀姓なんか男子だけで18人。次に田中が7人、山田・山口・江崎・木下が6人ずつ、等々。前同窓会長の江崎正直君などもマサナオ君である。

自転車事始め

十三、四歳？昭和二十年頃、柳川の糺屋町には、自転車を持っている家は少なかった。

近所の、三歳年上のチカヨシさんが、夏休みのある日、中古自転車を持ってきて、「教えてやるバイ！」と、自転車の後部の荷台を持ってくれ、よろよろ、よろよろ。二人とも汗ダクダク！



わしわし(クマゼミ)がそこら中、大きな声で「ワシワシ……」と忙しく鳴いている。田んぼの灌水機が「ガーガーゴ—ゴ—」と絶え間なく大騒音を発し、暑さがひととき増幅された。朝か夕方か涼しい時間にやればいいのに、何故か炎天下の狭い砂利道を行ったり来たり。やつと二日ばかりで乗れるようになった。チカヨシさんは大恩人だ。感謝々々だけども、七〇年来、何のお礼もしていない。一銭にもならないのに、どうして私に自転車乗りを覚えてくれたのか未だに分からないままである。

【失敗談】

同じ頃、近所の伝習館の先輩が、自転車で走っていた。遊び相手のいなかった私が、何か話しかけながら、後部座席を捉まえ、ぴょんと飛び乗った。なんだか、お尻に違和感が走った。

自転車を止めた先輩が「あーあ、割れちゃった!」と、ため息をついた。見ると、荷台に括り付けてあったレコードが真二つに割れていた。貴重なクラシック音楽のレコードを、友達の家と一緒に聴こうと急いでいたのだった。

「スンマッセン! スンマッセン!」と平身低頭して許して貰ったが、今でも心が

痛む。

やはり同じ頃、一級下のT君と二人でアイスクャンデー売りのアルバイトにあり付いた。旭町の店から自転車の荷台に冷凍箱に入れたアイスクャンデーを高畑公園に運んで売るのである。荷台に重い箱を積んで、50m位、二人でよろよろと自転車を押し、国道橋までは何とか辿りつき、橋の手前を左へ曲がる。砂利道でちよつと下り坂。「ガツシヤン!」自転車が倒れ、荷台からアイスクャンデーが放り出され、泥まみれ。

店主は大損害、二人は勿論報酬ゼロ。なんとも悲しい恥ずかしい思い出で、今でも店主に申し訳なくて、冷や汗が出る。

枝光へのフナ釣りはその後も段々エスカレートし、ついには、竿を5本位担いで、国鉄佐賀線の線路を早朝から行く。

遠くで西鉄の始発電車がガツタンゴツタンと音を立て、動き始める。釣り場を見つけて、釣り竿を扇状に水面に広げ当たりを待つ。おおもね空振りが多かった。餌が悪いと、近所の同期生のヨシハル君ゲーの綿工場に潜入し、上餌の縞ミミズ(キジ)を盗み掘りした。それでも釣れる日は少ない。糞屋町では近所のオッチャンやアンシヤン達が「釣れたかい?」と魚籠を覗きに来る。走って帰る。ある日趣を変えて筑紫橋を渡り、当時は昭代村西浜武に遠征した。立派な神社(今、地図を見ると若宮神社となっている)があり、その石垣の下の堀で珍しく良い型のウナギを釣り上げた。その一匹だけで

ある。糞屋町に帰ると、案の定、近所のエンジシヤンに捕まり魚籠を覗かれた。「おお! やったジャン!」

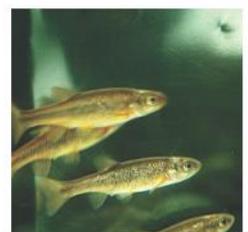
と、そのまま、エンジシヤンのアンシヤンのフジオサンゲーに連れて行かれた。すぐに近所の料理名人のスエさんが呼ばれウナギを上手に捌く。フジオサンの奥さんが火を起こしたレを作る。瞬間にウナギのかば焼きが出来上がり、いい匂いが漂う。向かいの家のオッチャンも匂いを嗅ぎつけて一升瓶を下げて来る。宴会が始まる。私の貰い分は皿に四切れだけだった。

チキシヨウ!

時間と労力を要するフナ釣りには段々興味がなくなり、遠のいた。季節によって、塩川(沖ノ端川)で、エビ釣り、ハゼ釣り。湯を掘って捕まえる気持ちの悪いによるよろした「ゴカイ」が餌である。これも気持ちの悪い「ワラスボ」も一緒にいた。皮が剥けた人肌のような皮膚でドジョウとウナギの間ぐらいの長さで、ややピンク色。「通称有明海のエイリアン」。上げ潮の時には釣れるが引き潮になると全く釣れない。エビとハゼは美味しかった。

昭和二十八年、二十歳頃。サラリーマン三年目位。やつと自転車を購入。休日度にハヤ(地方によりウグイ・モッコ・カワムツ等)釣りに出かけた。主に瀬高町方面の清流。エサはウジ虫。竿は3本継ぎの継ぎ竿にザツクの魚籠、フナ釣りよりも軽装である。近くは沖の端川の上流、磯鳥の堰のすぐ下。ここまでは有明海の塩水が満ちてくる。堰の上は清

流、緩やかな滝のように堰の上から、さらさらと水が流れてくる。広々とした風景で心が和む。何の拍子か鮎が釣れたこともあった。



更に上流の二ツ河や矢部川本流の朝鮮松原付近へも出かけた。遠くは、清水山のすぐ近くの瀬高町と山川村と高田村の境界辺り。家から12〜15キロ位かな? 今地図で辿っても分らなくなっている。もう少しで溪流になるような細い清流に糸を垂れる。良く釣れた。幅1m位の流が土橋をくぐると50cmぐらいの段差を落ちる。そこは小さな滝つぼみたいになっっていて、ハヤが集まっている。その下流は10畳程度のやや細長い池状になっていた。ここでもよく釣れた。誰にも教えない私だけの釣り場になった。欠点は近所の河童が2、3人泳いでいる時があること。でも水が冷たいので暫く眺めていると岸に上がり、今度は奴らが私の釣りを眺める。

ある日一人の少女カッパが泳ぎに来た。暫く泳ぐと私のそばに来て無言で私の釣りを眺めている。釣れると、手を叩いて喜ぶ。無邪気な笑顔である。小学生の高学年か中学の低学年くらい。手足がスラリと長くスタイルが良い。水泳帽を脱ぐと金髪。びっくりした。水着の胸は少し膨らみ、体全体にも金色の産毛がキラキラと生えている。まじまじと見つめても、意に介せず、ニコニコと笑顔で見

返す。言葉は発しない。

釣竿を女カッパの手に握らせて、釣り方を教える。何回か糸を上げ下げしているうちに一匹釣りあげた。大きな声を出し飛び上がって喜んでいる。私の手を取って土橋の方へ引張って行く。橋を渡り、10mくらい先の大きな農家へ連れて行かれた。家にはおばあちゃんがいた。女カッパが自分で釣ったハヤをおばあちゃんに見せ、得意顔している。おばあちゃんが紅茶を淹れてくれた。角砂糖もあって、女カッパのするように角砂糖を入れて飲んだ。生れて初めて紅茶なるものを飲んだ。初めての美味だった。女カッパは一言もしゃべらないがニコニコ顔で傍にいます。おばあちゃんがしゃべるだけ。

「この子の名はセーラと言います。お母さんはハワイに居るアメリカ人。お父さんはあの長押し掲げた写真のような元海軍士官で、遠洋航海演習でハワイに行った時にセーラの母と知り合ったのです。今は佐世保の海上保安庁に居る。近く、この子はハワイに帰る」

聞きもしないのに、次々としゃべる。

「この子は、日本に來ただけれど、今でも日本語が出來ず、身振り手振り



だけで、可哀そうなの」

おばあちゃん、普段誰とも会話がなかったらしく、いつまでもしゃべる。

セーラカッパとはその後、2回くらい会った。姉が大切にしていた色鮮やかな柳川鞠を秘かにプレゼントしたり、当時は貴重品だったチョコレートを買ったりしたが、それっきりになった。清水山は静かに、横たわっていた。秋の雲が浮かんでいた。

十数年後に、何気なくテレビの歌謡番組をみていたら、活発に舞台上を走り回り「トウララ、ウララ、ウラウラヨ」と歌っている歌手が居た。あのセーラカッパにそっくりだった。

それから3年位して直方市に転勤。職場は繁華街にあり市内を南北に貫く遠賀川に架かる「日の出橋」なる橋を東に渡ると正面に福知山が望まれ、なだらかな上り坂の道が連なる。一寸、北に曲がったところに独身寮があり。そこから自転車通勤である。その頃はまだ石炭の全盛期で、遠賀川は真っ黒な泥水状態、あちこち、ボタ山から白煙が立ち上っていた。朝は朝日を背に夕は夕日を背に日の出橋を渡って通勤。当時は土曜日も出勤したが半ドンというやつで午後3時ごろには帰路につける。やる事がないので喫茶店とか飲み屋に途中下車する。後輩のT君がぞつこんだった可愛いママさんの居るバーには開店を待ちかねて通った。それでも夏などは明るいうちに自転車をふらふら漕ぎながら帰る。T君が二回くらい泥酔状態で、土手から斜めに転落し、あわや川にはまる所で止まり、ぶ

つぶつ独り

言を言いながら自転車

を押し上げて戻ってきた。こういう時は案外怪我をしないもので次の日もケロツとしていた。結局ママにはハンサムなスポンサーがいて、T君の恋は終わった。職場には女性も五、六人いて、そのうち一人と交際する様になった。帰路、一緒に帰ったり喫茶店に寄りたりして楽しかった。彼女の家は日の出橋を渡った真つすぐ先の方で、バス通勤だったが、天気の良い日は自転車の後ろに彼女を乗せて、長いだらだらの上り坂を一生懸命漕いで家まで送った。三十分位かな？当時の体重が48キロ位、彼女が40キロ弱、おんぼろ自転車だったが、ちつとも疲れないし、楽しんで、とても楽しい時間だった。そのうち、その頃全盛期の裕次郎の映画、ある時は小倉まで行きアランドロンの「太陽がいっぱい」を一緒に観た。休日には彼女の家の近くを流れる小川にハヤ釣りに行きデートしたりした。



ある日、自転車で乗りながら私が「俺の嫁さんになる？」
後ろの荷台で彼女が

「うん！」

今年で、結婚歴72年、自転車歴75年、釣り歴80年、泳ぎ歴85年、生まれて90年。だよん！

柳川に帰ると、必ず西鉄駅でレンタサイクルを借り、アタリコクジュウ、サルキ回った。必ず「川下り」をした。



渡水看花復看花
晴光七十二橋斜
春風八里扁舟路
自到旧時詩聖家
柳川好 斜庵

春 柳河へソロリソロリと春が来る
夏 井上晴美・高14

秋 風に乗るオランダ囃子舟舞台
斜庵・高2

冬 白秋詩碑からたちの実のまるまるし
掘割を棹さし下る炬燵舟
原田万紗子・高13

終の棲家は、関東平野のど真ん中で平地。九十歳になっても自転車は大変重宝

している。ヘルメットは未使用！

十一月ごろになると、市内の一級河川「古利根川」にボラの群れが遡上してきて、岸の石垣の藻を食べる。これを釣るが、美味くない。釣ったらすぐ放す。体長15〜20cm位。
「おしまい」

二〇二三年六月修正

柳川徒然草

〔その五〕

戯文「偶にはお芝居も」

高4 小野硯一郎



硯・画（平成十九年 記）

故郷柳川に帰って来て早や七年になる。大阪では絵画教室の有志四、五人と月に一度ばかり近郊にスケッチに出掛けていたが、これも出来なくなった。

柳川でもせめて何人かとスケッチに行けたらよいがと思っていたが、ふと数年前の高校の同級会で、小学からの友人で中学時代に一緒に美術部に在籍したI君

が数年前奥さんを亡くしたらしく、淋しいね、何時も如何しているかと聞いたら絵を習っている、と言ったのを思い出した。ずっと福岡近郊に住んでいて、この辺の友人の消息にも詳しい彼に、一緒にスケッチにでも行こうかと提案したら「いいね、でもお前と二人じゃ少し淋しいな。中学時代に美術部に居た友達を誘ってみよう、それも女性がいいね」という事で、彼が女性二人に声を掛けたが、結局その内の一人Kさんが参加することになった。

こうして次の年の四月から我々のスケッチ会は三人でささやかにスタートを切った。例会は月に一回とし、初回は久留米の百年公園に行った。

三人とも七十歳に近い年寄りなので、七、八月の盛夏と十二〜二月の寒い時はお休み、つまり年に七回とした。共に技量ちよぼちよぼで、青空の下で自由に描くことに意義がある。出来、不出来はどうでも良い主義であり、約二時間半ばかりかけて描き終わったらお互いに褒め合っ

て引き揚げる。唯一の女性Kさんは、絵筆など中学以来持ったことは無かったが、リタイア後在宅のご主人の事を思って今迄余り外出しなかったが、これでは自分が潰れると思っていた時にI君から誘って貰って大変嬉しかった。体の続く限り頑張っ出て来るよ、と楽しみにして来てくれるので、我々男二人も遣り甲斐があると云うものだ。

そうして早や四年が過ぎた、延べ二十数回は行っただろう。初回に

続き、大宰府に数回、秋月城址、福岡城址、西公園、大川の昇開橋、日田、吉井白壁の家、矢部川べりの船小屋公園、郷里柳川、八女城陽の石橋など結構あちこちに行った。三人とも技量が技量だけに余り他人に見られたくないので、ひたすら人影の少ない所を選ぶ。目的地に十一時半頃着いて早めの弁当を食べ、十二時頃から描き始めて大体二時半には片付け

る。これは大宰府に行った時の事。

観世音寺で場所を選んだが、I君は正面の参道から描くと云って離れた所に行った。私とKさんは、鐘楼を描くことにした、この鐘楼は大晦日のNHKの「行く年、来る年」でよく紹介される有名な鐘楼である。

Kさんと私は二、三メートル離れて話が出来る場所で描き始めた。

この日は気候が良く晴れた日だったせいか、参拝者や観光客が多い。当然度々覗かれる。これは仕方がない。我々はどう可成り回を重ねてきたので始めの頃の様には気にならなくなっている。大阪に居た頃、スケッチをしていると人に見られて嫌だ、と言ったら教室の先生が「見に行く人は素人ですよ、プロや上手な人は見て行きませんよ」と言われたが、それでも余り見られると筆が鈍る。

この日は割と立ち止まって見て行く人が多く、「絵心のある人はい、ですね」などと言う人もある。

その内に「ご夫婦で仲良くスケッチなさって、ご趣味が一緒に良いですね」と言っ

て思っているのだ。これを聞いてKさんは最初の二、三人には「違いますよ、私は中学からの同級ですよ」と言い訳をしていたが、これがまた「あら、それは素敵ですね、何時までも仲がお宜しくて」などと変に勤ぐられるのだ。

私はKさんに「夫婦と思われたら思わせておこうよ、折角だから」とそれからお芝居をすることにした。折角言ってくれる人に対する思いやりの気持ちだ。間もなくして、年寄りの男性がやって来て、我々の傍に座り込み、ペットボトルからお茶を飲みながら、我々に向かつて自分の事を語り始めた。

「自分は毎日嫁に弁当を作って貰ってこの辺をぶらぶらして一日を過ごす。絵ぐらい描けると良か」などと話し始め「ご夫婦でこうして仲良うスケッチとかしてあるとは羨ましかですな」と言い出した。私はすかさず「いや、偶のスケッチくらいは他所のご婦人と行きたかバツテン、家内がどうしてもついて来ると言うんですよ」と言っ

てやった。その人は「そら贅沢な、それは良うないですバ、いえ、ねえ奥さん」と本気にしている。それから幾らかわざとKさんと夫婦らしい会話をしてみせたが、あとでKさんに「貴方、悪い人ね」と言われた。果たしてKさんは本当に悪いと思ったのだろうか。人間、他人を傷つけないならば、偶にはお芝居をしたり、嘘をついても閻魔様は許して下さるのではないだろうか。

「へそくり山」

―柳河城址公園の思い出

高4 荒井健之輔

「へそくり山」と言ってもご存じない人が多いであろう。昔の柳河城の跡にあった小さな公園のその中であつた小山である。明治5年柳河城は炎上、天守閣も消えた。やがて城郭の大方は水田になつてしまつたが、その城跡の天守閣を中心とした高台の一角が小さな公園となつていた。石垣で囲まれた高台の城址公園の真ん中に、天守閣の跡に造られたであろう小山があつた。小山にはらせん状に頂上に登る道がつけられていて、頂上にはコンクリートの円形の鉄の手すりの付いた展望台があつて、10人程は立つことが出来たと思う。標高30m程はあつたであろうか、これが「へそくり山」であつた。久留米以南、清水山以西、甘木山以北、筑後平野では他に高地がなく、「へそくり山」が最高所で360度の展望を欲しいままにした。北には背振山系、東には清水山、西北に天山、南には有明海を隔てて雲仙岳、少し西に目をやると多良岳を遠望することが出来た。

正面の通りから城址に入る道は、これがかつての大手と思われるが、両側に松が植えられていた。左側にはかつての堀の跡が蓮池になつていて、大手の道を進んで左に蓮池をぐるりと曲がると、そこは少し広くなつていて、その右手正面に高台に上がる幅広の石段があつた。石段を上がつたところの真ん前に、天守閣跡に造られた「へそくり山」が聳えていた。大手の道そのまま右手を北に真っ直ぐに進むと、左の石垣に沿つて細い道になつていて、右は小さな堀を挟んで柳河商業の敷地になつていて、グラウンドが広がつていた。高台に上がる石段の前の少し広くなつたあたりや、高台の上には桜が植えられていて、城内村の桜の名所であつた。高台の東北の隅には大きな平屋の公会堂の建物があつた。

「へそくり山」の北側には池があつて鯉や真鯉など鯉が沢山泳いでいた。池の西側には小さな太郎稲荷社があつた。その後ろは少し高く孟宗の竹林だつた。公会堂の西側には北に降りる石段があつて、更にその側には管理人の住宅があつた。同級生の近藤継夫君の家族が住んでた。

〈へそくり山の記憶〉(1)

私の「へそくり山」の記憶の初めは学校に上がる前の4・5才の頃である。祖父が手に入れた真鯉を「へそくり山」の池に放つというので、一緒に出掛けた。右手に鯉の入つたバケツを提げ、左手で私の手を引いて連れて行つてくれた。私の家からは500m足らずだつた。大手から石段を上がり池に向かった。池には鯉が沢山泳いでいた。祖父が鯉を池に放つと、鯉は勢いよく泳いでいって、どれだか分らなくなつてしまつた。そして用意していた麩を千切つて鯉たちに与えた。鯉が群れて口を開けて麩に飛びついてパクパク食べるのが面白かつた。その

あと、城址の中央にある「へそくり山」に登つた。らせん状の道をぐるぐる回つて行くのが面白かつた。てっぺんの展望台からは見渡す限り360度の展望が開け、初めての経験で驚いた。祖父が清水山を指さして教えてくれたのが、遠いかなかな記憶にある。

〈へそくり山の記憶〉(2)

次の記憶は、小学校に上がつてからである。私は城内小学校に入学した。初めての遠足が「へそくり山」であつた。鯉を放ちに連れて行つてくれた祖父は、私が小学校に上がる入学式の日になつた。私が学校に上がるのを楽しみにしていたというのに、なんとその入学式の日になつたのだつた。それで入学式には、隣の竹下の照子さんと照子さんというので、竹下の小母さんと照子さんと一緒に行つた。城内小学校は私の家の真向かいで門まで約50メートルだつた。

〈へそくり山の記憶〉(3)

明確な記憶の3度目にあるのは、2年生になつてからである。入学した時は「城内小学校」だつたが、2年生になる時は「城内国民学校」と名前が変わつてた。そして、その年昭和16年12月8日にあの忌まわしい太平洋戦争(当時大東亜戦争)が始まつた。開戦当初、日本軍は快進撃を続け、中国から東南アジアを攻略していき、昭和17年(1942年)2月シンガポールを占領した。国は挙げて祝賀のお祭り騒ぎだつた。城内国民学校の我々も祝賀行列で、日の丸の小旗を持つたりして「へそくり山」に向かつた。「へそくり山」の東側、城址公園の東端に、皆並んで記念写真を撮つた(今手元にある)。私は父が書いてくれた

あと、城址の中央にある「へそくり山」に登つた。らせん状の道をぐるぐる回つて行くのが面白かつた。てっぺんの展望台からは見渡す限り360度の展望が開け、初めての経験で驚いた。祖父が清水山を指さして教えてくれたのが、遠いかなかな記憶にある。



昭和17年、へそくり山城址公園で、城内小学校2年生の記念写真。私は前列中央で「祝新嘉坡陥落」の横長の紙を持つ

「へそくり山」の東側、城址公園の東端に、皆並んで記念写真を撮つた(今手元にある)。私は父が書いてくれた

「祝新嘉坡陥落」と書いた横長の紙を持って中央に座っている。(新嘉坡シンガポール)

3年生ぐらいになると、「へそくり山」は我々子供の遊びの行動半径に入ってきて、時々出掛けては池の鯉を眺めたり、山の頂上に登って展望を楽しんだりした。

〈公会堂のこと〉

城址の高台には北東の隅に大きな平屋の公会堂があった。我らの城内村(当時)は役場も小さくて、大きなホールも無く、小学校にも講堂や体育館などは無く、文化的な行事や演芸的な催し物には公会堂が使われていたように思う。

昭和22年の学制改革で、新制の中学校が出来た。年明けまでは中学伝習館に進むつもりで受験勉強らしきものをしていて、試験なしで中学校に行けるらしいと、ほっとしたり喜んだりしたが、実際はお粗末なスタートの中学校生活となった。勿論校舎は無しで伝習館と柳河高等女学校の教室を借りて(伝習館は教室ではなく、武道場を板で仕切っただけの)机も椅子も黒板も無かった。始めは床に座っての、無い無い尽くしのスタートだった。

新制の柳河中学校の敷地選ばれたのが、柳河城址の北から西にかけての一面(水田)だった。このことが柳河城址の悲しい運命となった。水田を埋めて学校用地を造成するのに、城址を削り始めたのであった。天守閣跡の360度の展望を欲しいままにした「へそくり山」も削られて姿を消してしまった。更に城址の

高台も一部削られていった。鯉を放った池も消え、稲荷社も消えた。南面の石垣もなくなり、城址正面の蓮池も埋められた。嗚呼!

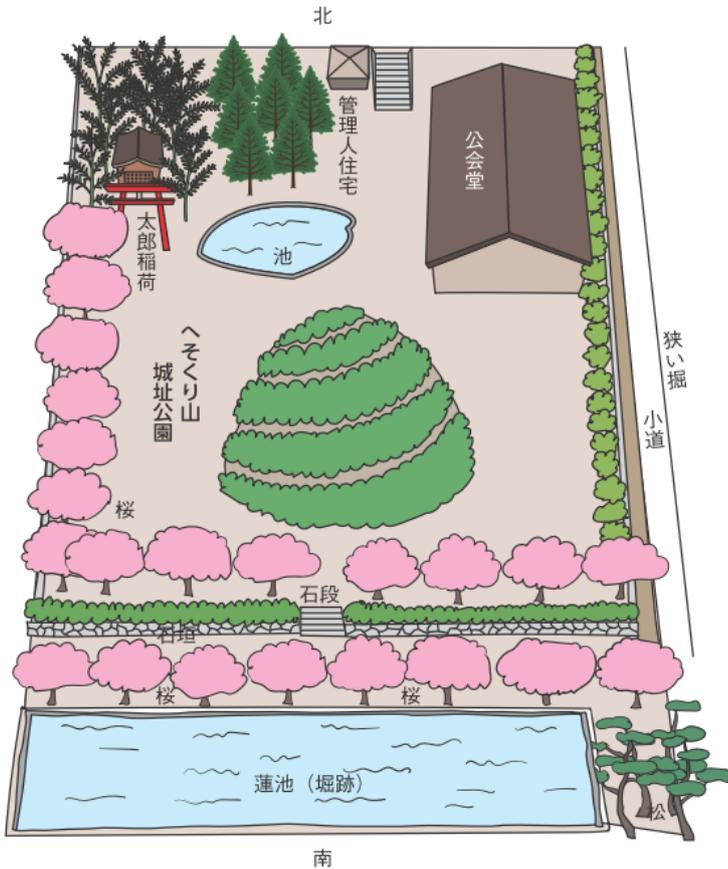
ただ公会堂は暫く残っていた。(いつまであったかは知らないが)城内村も町村合併で柳川市になったが、当時柳川市にも文化ホールのものは無く、文化的行事や演芸的な催しなどで利用価値があったのではないかと思われる。

私たちの記憶で鮮明に残るのは、新制の柳河中学校の卒業式と謝恩会がこの公会堂で行われたことである。新制第1回の入学生だった我々には、卒業を控えた

頃に校舎がようやく一部出来てきたところで、グラウンドも出来ておらず、講堂などまだまだだった。隣接する城址高台の公会堂はもってこいであつたらう。公会堂は教職員・生徒約250人余を収容できたのだ。

〈謝恩会余談〉

卒業式が終わり、謝恩会ということになり、生徒が余興をやるということだった。司会者が「誰か」と声をかけるが、誰も立ち上がらない。「誰かやらんか」という声があちらこちらで出る。そこで、私(荒井)が思い切って勇気を奮って手を挙げてステージに上がった。



「オー、アライガ、ヨカゾー」という声が聞こえた。私は当時大ヒットしていた岡晴夫の「憧れのハワイ航路」を歌った。「晴れた空 そよぐ風」とやっ。大拍手だった。そうしたら、次々にステージに上がる者がいて、大いに盛り上がった。そして、最後にもう一人となつたら、誰も上がる者がいない。「誰かおらんかー、やらんかー」という声が出たりした。そこでまた私(荒井)がステージに飛び上がって、今度は笠置シズ子の「ホームランブギ」を歌った。私は野球部にいたので時々口ずさんで歌詞もよく覚えていたし、ラジオでもヒットしていた。私が口火を切り、そしてトリを務めた。そして謝恩会は終わった。「アライサン、ヨーヤルネー」という声もあった。終わってから頬が火照って、少し気恥ずかしい思いもした。忘れ得ぬ思い出である。

昨今、テレビなどで城址がよく話題に上がる。郷土自慢や、観光の目玉になったりするのを聞くが、柳河城址もせめてあの「へそくり山」が残っていればと思う。水田の埋め立てにあの「へそくり山」が削られて消えて、城址の高台もまた一部削られて埋め立てに使われたとは、今にして悔やまれることである。城址の高台はまだ一部残っているようである。久しく訪れたことはない。立花宗茂公はどう思っておられるであろうか。嗚呼!

四年ぶりの母校と 柳川へ

高5 下河 秀行

毎年、東京から郷里柳川行きしていましたが、世界的なコロナ禍で、私は四年ぶりに我がふるさと柳川を訪問することが出来ました。

まず、昨年五月二十八日東京で、「伝習館高校東京同窓会」(四年ぶり開催)に出席しました。続いて六月四日柳川市の白柳荘で開催された「伝習館高校第五回卒同期会」に出席するため、六月三日から六日までの四日間、福岡行きとなりました。

伝習館 第五回卒同期会四年ぶり開催

世間では、「人生100年時代」とよく言われるようになりましたが、とてもそんなに長生きするとは思いませんが、私たちは幸いにして「米寿」を迎えることが出来ました。

この筑後地区同期会(うぶすなの会)は長く続き、お陰様で今日まで健康だった同期生が久しぶりに四十名近く集まり、懐かしい旧友と会っていろいろと談笑することが出来ました。今回も東京や大阪の遠方からも参加者があり、大変楽しい同期会でしたが、会員の高齢化もあり、残念ながら今年が最後の同期会となりました。



校長先生を訪問

翌五日は、母校で藩校から創立200周年を迎えた伝習館高校を訪ねました。こちらも四年ぶり訪問で、この四月就任されたばかりの井上淳郎校長に再会することが出来ました。と言いますのは、昨年五月二十八日「伝習館高校東京同窓会総会」(港区田町の会場にて開催)で、お会いしたばかりだからです。井上校長先生とは、学校の現状についてお聞きしたうえで、以下の質問に回答して頂きました。

Q一、創立200周年を迎えて

・先達の方々の尽力のもと、現在の伝



井上校長と私

習館があると考えます。これまでの歴史と伝統を踏まえながら、これからの日本を支える人材育成に努めて参ります。

Q二、藩校サミットについて

・現在、学校としては、誘致に動いていません。本校の200周年式典等の準備及び調整を最優先と考えています。

Q三、柳川ウナギについて

・木庭教諭のご指導の下、自然科学部生物班が活動を行って参りました。この春の人事異動に伴い、木庭教諭が山門高校に転任となり、拠点は山門高校へと転じています。現顧問の諸藤教諭と今後のウナギ研究について現在、検討中です。

Q四、SDGsについて

・社会構造や背景が大きく変わる中、持続可能な社会発展及び、その体制づくりは大きな課題だと考えています。本校では、2年次の総合探究の時間を通じ、課題研究を行っており、SDGsの17のテーマから深掘りする研究テーマを選択するチームがあります。発表会を予定しています。

Q五、セミナーハウスについて

・現状は、部活動(書道部・琴部)での活用が主で、令和5年度は安東省菴顕彰会主催の柳川孔子祭でもお使いいただきました。また、周年行事予算で空調設備の入れ替え等を行わせていただきました。3階のメモリアルホールの活用も含めて、今後検討していきます。

お忙しい中、ご回答いただき有難うございました。

観光大使として柳川市長を訪問

その後、アポを取っていた金子健次柳川市長を訪問し、柳川観光大使としてこの一年の活動を報告し、市長、観光課長、課員の方々と打ち合わせしました。

柳川の現状や動向と対策について

1、コロナ禍後の柳川観光について

コロナが落ち着きつつあるので、柳川の観光客は、大型バスの団体ツアーが戻り、家族や少人数グループでの個人客も増えるなど、国内観光客が回復しつつある。また、インバウンドの観光客は、これまでのアジア中心から欧米豪のお客様も増え、3月の情報では、九州や福岡県においてコロナ禍の7割程度まで回復している。その後ゴールデンウィークを中心に観光客はコロナ以前の賑わいに戻りつつある。

2、藩校サミットの誘致活動

この藩校サミットは、毎年行われているが誘致運動が激しく、今まで立花民雄氏が出席しておられたが、現在は立花宗

鑑氏が出席されている。柳川市民会館が出来たので、市民を巻き込んで誘致促進をしていきたい。

3、市のSDGsへの取り組み

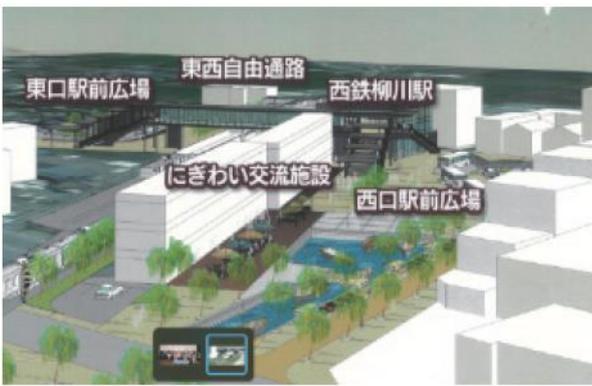
柳川市のSDGsの取り組みは、第二次総合計画において、市の将来像である「水と人とまちが輝く柳川」の実現に向けて進めるなかで、「SDGs」の17の目標に対して取り組んでいくことを明記している。

4、駅前からの川下りする大型工事

① 福岡県は、柳川駅前から乗船できる川下りの掘削工事を実施。

② 西鉄は賑わい交流施設を建設。

③ 柳川市は掘削を活用した観光を持続可能なものにするために27名の第三者委員会を立ち上げ、二月提言書を提出していただいたそうです。



▶ 令和七年三月完成を目指して工事が進む駅前【川下りコース】

その他、柳川観光事業関係で

見事な「中山の大ふじ」

「中山大藤（なかやまおおふじ）」は、福岡県柳川市三橋町にある樹齢300年以上の県指定天然記念物の藤です。享保年間に、酒屋の「萬さん」が大阪の野田の藤を持ち帰り、植えて育てたのが始まりといわれています。その後、中山熊野神社の境内に移植され、4月中旬ごろから350坪の藤棚に、大きな花房の藤が咲き誇ります。神社の石橋にかかる紫の藤のアーチは、フォトスポットとして人気。第二十回中山の大ふじまつりでは、過去最大の二十二万人来場者がありました。



広大な「ひまわり園」

約5ヘクタールの有明海の広大な干拓地に、約50万本のひまわりが咲き乱れ、あたり一面、黄色いじゅうたんを広がったかのような光景が楽しめます。最盛期には、地元特産物の販売なども行われます。

「むつごろうランド大遊具」

この四月三十日に完成した待望の「むつごろうランド大遊具」などについて懇談しました。

むつごろう「ランド大遊具利用開園」当日は、5000人の来場者があり、大変な賑わいだったそうです。



「新五千円札の裏にふじ」

特に、来年度発行予定の新千円札裏にふじの写真が採用されており、金子柳川市長は大きな期待を寄せられており「中山大ふじ」にまつわる逸話に熱弁を振られたことが印象的でした。

新五千円札と中山大藤の関係

二〇二四年（令和六年）度に新紙幣が流通されます。その中で、新五千円札の裏には藤の花が印刷されますが、この花は、野田藤だと書かれています。

中山の大藤は、昭和52年の4月に福岡県の天然記念物に指定され、言い伝えによれば、江戸時代享保の頃、中山の四百七十番地に醸造業を営む通称「萬さん」が、上の野田（大阪市福島区）の藤を見物し、見事な藤の美しさに感動し、その実を持ち帰り自宅に植えたそうです。

その後、萬さんはこの藤を中山の熊野神社の社前に奉納し、永年にわたり、中山地区住民、三橋町民をその花房の美しさとよい香りで楽しませてきました。近年では、藤の花の咲く頃は、遠方々海外から多くの見物客も訪れられています。



大阪野田の原本は現在燃失していることですが、新紙幣が流通し、藤への関心が高まることを期待するとともに、樹齢三〇〇年を超える中山の大藤の成長は年々勢いを増し、日本一の藤づくりへと夢を膨らませていきます。

二〇二三年（令和五年）6月吉日
中山大フジ保存会
中山大藤まつり実行委員会



ひまわり園が郵便切手に採用される。左側2番目のひまわり84円切手。

「電話詐欺のお話」

高18 福山 博彰

2022年の春のことになりますが、

私に二つの事件が起こりました。

その二つともが「まさか!?」なんでオレがア?という全く予期せぬ出来事でした。

.....

一つ目の事件は、2022年の3月末から突然、不覚にも3週間余り入院をいたしましたことです。

(これについては詳細割愛、また別の機会に)

そして、二つ目の事件は、その退院から1カ月ほど経った5月下旬の土曜日の午前中のことです。私宛に電話がありました。

私宛にとわざわざざざことわったのは、家の電話になると、
「フクヤマヒロアキさんのお宅ですか?」

と若い男の声で聞いてきたからです。ウチでは知らない未登録の電話番号には「ハイ、福山です」と名乗らないことにしているが、この電話では私のフルネームを言ってきた。え、俺を知っているのかと思いい、はい、そうです、と応える

「あ、ご本人様ですか?こちらは練馬区役所の健康保険課のマツモトと申します」

(ん、区役所か、それなら名前ぐらい分かるよな、何だろう?)

「実は医療費還付の申請期限が4月末になっておりますが、まだ申請書をご提出頂いていないようなので、確認のためお電話を差し上げています。書類は届いておりませんでしょうか?」

(ん? 医療費の還付金? この間の入院の費用のことかな? それとも高額医療費補助のこと? 入院中に家に来ていた郵便物は全部見たし、3月中にもそんなものは来てなかったし。第一、お金とお酒と女と音楽にウルサイ俺が見落とすはずはないんだけどな...)

そこで、いやア来てないんですけどねえ...、と応じると

「昨年お支払いになった累積医療費の一部が還付されることになってます。因みに、フクヤマ様の還付金額は2万3368円となっておりますが、もしご提出がまだでしたら、本日お手続きができますが...」

(ん? 昨年分の医療費の還付のこと?)

それなら2月に確定申告の際に申告してちゃんと貰ったけど、更にくれるんかいな? :え? 本日? 今日は土曜日だけど、区役所はやってんのかい...)

「本日のお手続きはですね... (中略) :因みに還付金のお振込み先になるお取引銀行はどちらでしょうか?」

(え? いきなりなんだよ?! ま、銀行ぐらいは教えても実害はないだろうと思いい...)

三井住友銀行です、と答えると、
「それでは、本日午後3時までに三井住

友銀行の本店に行かれてお手続きください。詳しくは後ほど銀行の本店の方からご説明の連絡が入りますので、それに従ってお進めください。尚、銀行の振込手数料が2160円かかりますので、ご承知おきください」

と言って電話は切れた。

(えーッ、本店まで今から急に行けっつかよ?! 1時間はかかるじゃないか。もっと早く言えよ。それと、うーん? 医療費の還付のお知らせねえ...? 見えないなあ... あれ? 医療費用のお知らせ? が来てるのは国民年金課だよな。おかしいな、何かどうも釈然としないなア)

それよりももっと根本的な疑問点がある。念のために近くに住む友人に確認のため電話をした。実は友人の長男がたまたま練馬区役所に勤務しているのだ。すると、そうなる! やっぱり土曜日に業務はやってないし、還付金を扱ってる部署なんかもない。これはおかしい! と確信して電話を待った。

「こちらは三井住友銀行本店のワダと申しますが、フクヤマヒロアキ様のお宅ですか?」

(来た来た、こちらも若い男の声: ハハア、ん、やっぱりそうか。さっききた電話番号03-6260-5581の6260は練馬区の番号じゃないし、この電話番号03-6260-5580は本店所在地の千代田区ではないどころか、下4桁の一番最後の数字が一つ違うだけではないか。連番かよ! ニヤニヤ...)

「医療費還付の件で、先ほど練馬区役所の方からお電話が入っていると申しますが、還付金の受け取り方法についてご説明します... (中略) : 通帳、カード、印鑑、身分証明書をお持ちになってお出でください。それからその場で申請書に記入頂いてご提出頂きます。尚、還付金振込の手数料が2160円かかりますが、お口座を5年以上お持ちの方、且つ残高50万円以上の方は手数料が無料となります。フクヤマ様はいかがでしょうか?」

(ふん、もっともらしく手数料だよ。支払うのは練馬区役所なんだから取人が負担するのはおかしいだろ?! それと口座残高なんかで区別するなんて聞いたことないぜ。その残高を聞いてカモになるかどうか見計るんだな。大体、土曜日に銀行業務なんてやってんのかい? 土曜日の銀行って一体どこから入るんだよ?)

ま、ツッコミどころ満載でフンと聞いていたところ、途中から、
「お客様の○×#%&は: # \$ % & * : # \$ % & @ : : でよろしかったでしょうか? : # \$ % & @ : : 事前に口座番号: # % & ¥ * : : それに暗証番号をお知らせ: # % @ ¥ & : :」

と、背後がうるさくて何か言っていることがよく聞こえなくなってきた。要するに口座番号と暗証番号を先に教えろということなんだろうが、何でかな? ようし、メチャクチャな口座番号と暗証番号とかを言って相手を混乱させてやろうかと思いい、ちよっと余裕の雰囲気を出して、

「ええと、すみません。その前に、電話の後ろで女の人がワイワイガヤガヤ騒いでいてよく聞こえないんですが、一体なんですか？」と聞いたら、「えッ……あっ！」(ガチャン)と言って電話は切れてしまった。

あのねえ、電話をいきなり切るのは失礼だよ！なんかヤバイと感じたのかな…。

ま、練馬区役所には友人の長男が勤めていて土曜日はやってなくて、オタクらの医療費還付の業務なんかやってないということも分かっているんだよ；それに俺はちよつと前まで三井住友銀行の本店に勤めていたんだけどよォー平日でも土曜日でもそんな区役所業務を代行しているような部署なんてないんだよね。もつと勉強したらどうだい。バカ！

と啖呵を切つてやろうと思つていたのだが、チクショー悟られたか。この野郎、切りやがって！

頭に来たから10分くらいそのまま受話器を置かずに向こうの電話が使えないようにしてやった。ザマミロ。これで少し溜飲が下がった気に。でも、あの仲間と思われる、あきらかに日本語とは違う女性群のガヤガヤは一体何だったのだろうか…。局番からすると海外からの電話ではないし…。

とにかく…なるほどね、話に聞く電話の還付金詐欺ツちゅうのはこういう風にするのか。

これは警察に報告しておかなければい

けないなどと、相談窓口の#9110に電話をしたがお話し中で繋がらない。何度電話してもだめなので、あれ？ひよつとして…とインターネットで調べてみたら、何と土日祝日はお休みだよ。ありや。ケイサツにはお休みがないけど相談窓口は休むのね、ハイハイ、了解。フン！

相談をしたいときこそ休むサツ。

翌週になって月曜日、火曜日と午前中に電話をしたが、またまたお話し中で全く繋がらない。何だよ、これは、全然機能してないじゃん。受付増やせよ、使えねえなア。ダメだこりゃ！

皆さん、電話での儲け話やオイシそうな話、怪しい投資勧誘、それは特殊詐欺ですよ。いかにもホントらしく話してきますからね、引つかからないようくれぐれもお気をつけくださいまし。

騙されたスケベ根性出すからよ。



《ホンネのハナシ》

おゝい、電話詐欺のお兄さんたちよオ、今回は相手が悪かったね、最悪だろ

うよ。残念でしたア。よりによって一番ヤバイ人に電話かけちゃったんだもんね。エエ度胸しとるやんけ！(そんなこと知らねえか…)ま、なんせ知り合いが練馬区役所に勤めているし、こちらら、ちよつと前までは三井住友銀行の本店に勤めていたんだからさあ、内部事情を知っているホンモノが二人も揃つていちゃあオタクらの言つてること、やつてることが実際にはあり得ないことばかり、そんなことお見通しなんだよね。例えばさあ、土曜営業のウソはもとより、爺さん婆さんをターゲットとして狙つてるんだから、そういう人に印鑑なんて言つてもシヤチハタとかの認印でいいと思つてしまふよ。私どもの銀行にお届けになつているご印ですと丁寧に言わないとね。それとさあ、カードなんて言っちゃダメだよ。銀行によってキャッシュカードとかマネーカードとか言い方が決まってるんだよ。ちゃんと覚えよ。アンタ、銀行員でないことがバレバレだよ。組織的にグルでやつてるんだらうけど、やり方が下手なんだよね、ド素人集団だよ。このオレ様を騙すにはもつと勉強しないとね。

そうそう、最近話題になつているChatGPT、あのAI技術を詐欺集団も使つてゐるのかね？悪用されると厄介なことになるよなあ、悪意のある人が使うのを防ぐ手だてがないからね。でも話によると検索機能はイマイチで、一般理論的な正論・抽象論やもつともらしい回答が多く必ずしも内容が正確とは限らないらしいから、まあ、場合によってはオレ

様が実際に本当に役に立つような業界用語や言葉遣いからナニから、経験に基づいて、具体的に詳しくマニユアル作つて色々やり方教えてやらないこともないんだけどね、5百万円くれればの話だけ…。安いもんでしょ！？知らんけどヘッヘッへ。

詐欺窓口5百万なら教えたろ。

《真面目な話》

最初電話を受けたときは、1カ月前前にたまたま医療費を支払っていたので高額医療費補助のことかな、対応が早いなと考えた。それで、相手の言うことをハイハイと素直に聞いていたが、段々どうも実態にそぐわない腑に落ちないことが沢山でてきた。だから途中から、これは怪しい、電話詐欺だと気づいたからいいものの、そうでなければ危うく信じてもうまく誘導されていたかも知れない。しかし、家の電話番号と住所・氏名、それに高齢者だという個人情報を知られているのは非常にマズイ。が、どうしようもない。何の資料でどこから漏れているのだろうか。そういう心配・疑念は残る。

最後に、まるで私が創作した脚本みたいなウソのような本当のこの話、詐欺に引つかからなくて良かったという安堵感の他に、少しおちよくてとちめてやろうと思つていたのにイッ！という残念ならだちの気持ちもある。

でもそんなことより、一番グサツと来ているのは、俺もとうとう電話詐欺のカモのターゲットとなる歳になつてしまっ

たのか…ということ、いささかガツカリしているのです。
カモになる歳になったかああ落胆

2度目の青春

―行く人・来る人―

高41 下河 敏彦

人生100時代と言います。100年もあるなら青春も2度3度あってもいいでしょう。なんば言いよるかという声が聞こえてきそうですが、自分のなかで青春を「出会いと挑戦を強く求める時代」と定義させて頂きます。そうすると、1回目は高校時代から大体人生1万日目を迎えるころまでとしましょう。そして1回目の青春で思うようにいかなくて、One more chance とばかりにまた出会いと挑戦を繰り返し、そうして大人になってもどきまぎしてもいい、ひたむきさがあれば30年ぶりに会った人とでも「変わらんなあ」と笑いあえる。それに気が付いてから、大体人生2万日目の周り。この辺を2度目の青春としましょう（※いずれも個人の見解です）。

■2度目の青春で上京した人

今年（令和5年）、東京41回生は新年会で盛り上がりました。そのときに、新しいメンバーが来るというのです。聞けば彼女は、2年半ほど前に上京し、高校時代話したことがある女子が何人か

て、「都内に住んでいて海外の土産話をしてる大男」にラインを通してもらった」ということでした。

2年半前と言えばコロナ禍の真ただ中、ワクチンが打てるとかいな、などと不安に満ちていたころです。私が上京したのは1回目の青春で、バブル崩壊だなんだと世の中が動いていた時期でした。みんなの事情に違いこそあれ、東京41回生の多くは1回目の青春時代に東京にきている人が多いので、自分の将来に対して前進しようといういろいろのパタパタしてたと思うんです。そんななか、自分の歩みへのなつかしきで胸を熱くすることが分かるようになった2度目の青春で上京するってどんな心境だろう。もしかしたら、馴染みにくい部分もあるのかな、と少しばかり心配してました。



2023年東京41回生新年会

でも、そんな心配などかけらなくても必要なかった。「みんなとおると高校時代に戻るけん、ぎゃんよか！」と言ってくれました。

20年ほど久留米にいて、同級生が送別会を開いてくれたんだそうです。故郷にいても東京にいても同級生の仲間の支えに感謝とのことですが、またひとり、それぞれの夢を心に映し、故郷と東京の架け橋になって心の通学路を増やしてくれる友に出会えました。人は出会いある限り老けないし、青春と言っていんだなと教えられた気がしました。

■地球の反対側へ

50代になったら守りに入るひとがいるらしい。それまでの人生と同じ時間が残っている自信がないからだといクールな意見と、いやいや出会いと挑戦を続けるもんよ、と強がってみても、実は後者の方が少ない、そんなことに気が付いて酔いが少し冷めた経験がありませんか。

またオーバークも、と言われそうな出だしですが、世界に羽ばたく挑戦をした人を紹介します。私は彼と中学校も一緒ですが、成績優秀、サッカーもうまいイケメン。はあ、なんか才能分けてくれてな感じですが、驚いたのは南アメリカ大陸のチリ共和国へ単身赴任するという

のです。すごい転勤やなと思ったら、「自ら望んだ、娘も成人したし、50代になったところで新しい挑戦をしたい」とのことでした。

彼の国との距離は直線でも1万7千キロ、時差は13時間。太平洋の対角線側にあたります。そんななか、カラオケ屋さんで開いた同期の集まりにはZOOM参加してくれました。青春を共にした力って物理的な距離は関係ないんですね。

■人生の化学反応

もうひとり、自分の人生に新たな挑戦をした同級生を紹介します。彼は大学生の時から東京にいたので、同期生のなかでは最も東京に長く暮らした人のひとりです。東京に来た理由を「パツ」としたかったと語っていました（オイ、ちょっと待ってくれ、君がパツとしなかったといわれたら俺は…）。私もそうでしたが、難しい時代でしたから多分東京で孤独を感じたこともあったんでしょう。私



オンラインで地球の反対側と繋がる激励会



星空の国、チリにちなんだネクタイピン



2023.7.8 バーベキューで送別会



2023.7.8 2次会でも盛り上がる41回生

のように語り合える理解者である。そんな思いを強くした、3人の友を紹介させて頂きました。苦い日々の意味もひたむきなならばやさしい昨日になる（年がばれますね、カラオケなんかいくと、出てくる曲は8割昭和、2割平成、時々令和なんです）がみんなふけない）

と信じて、うまくいかなくてもバタバタしても何とか自分を失わず日々を頑張っているからこそ、みんな魅力的なんだなあと思います。

伝習館は創立200周年を迎えます。時代とともに同窓会の在り方も変わっていくでしょう。でも変わらないものもある。帰ってくる場所もある。どっちも探すのは楽しいことです。

■Another sky, Return to Myself
誰にとっても故郷と青春は共通の恋人であり、何キロ離れていようと肩を組める距離に、何年離れても昨日今日のこと



ANAで羽田や佐賀空港でよく聞くAnother Sky

第1回の同期会は1971年（昭和46年、卒業14年、32歳）の4月、柳川簡保で開催されましたが、関東地区在住者から東京での開催の希望があり、故榎本瞭治君が発起人となり、「第1回東京・第8回生同期会」を銀座日航ホテルに28名が集い、開催したのが始まりです。また子育て真っ最中、子供さんと参加された方もいました。そのあと樋口誠佑君が幹事として、2



第1回 銀座日航ホテルの8回生同期会（1971年、昭和46年）

【学年だより】
8回生、最後の同期会
高8 池田 孝人

伝習館創立200周年おめでとうございます。この記念すべき年に卒業66年と85歳を祝う最後の同期会をこのほど開催しました。

会期 2023年（令和5年）10月26日
会場 大手町 KKRホテル東京

私たちが世代は戦後復興、高度経済成長、石油危機、バブル崩壊の荒波を踏破してきた強者世代です。今回は年齢とともにコロナ禍の中、6年の中断が大きく影響したか17名の出席となりました。欠席者の大半が体調不良で真に残念でした。しかし福岡から木原由美子さんが初めて、また大江ヒロミさんが久しぶりに出席されたことは限りなく嬉しいことでした。

013年（平成25年）まで約40年の長期にわたり、尽力・主導していただき、40名の出席を得たこともありました。心よりお礼と感謝を申し上げます。
2017年（平成29年）11月、4年ぶりに大村泰生君が世話役として、大手町のKKRホテル東京において「卒業60年と傘寿を祝う会」を開催、27人が出席して大盛況でした。次回、2020年（令和2年）の開催を予定しましたがコロナ禍の中、延期を余儀なくされ、6年ぶりに「最後の同期会」を開催の運びとなった次第です。6年ぶりの再会に話は尽きることなく、予定の時間をあつという間に過ぎたことはいまでもありません。



最後の同期会、大手町KKRホテル東京（2023年、令和5年）

会員が6年前に心を戻して話し合い、昔話に花が咲く一方で身近な問題として健康のことなど、歳を感じさせる話があちこちから聞こえたのも自然の成り行きでしょうか。今や10人に1人が80歳以上の超高齢社会になりました。同じ学び舎に学んだ同期生には語りつくせない思い出があります。多くの友人に恵まれたご縁を大切に交流を深めてまいりました。

人生100年時代！ 米寿、卒寿まで

：「次も絶対出るけん、はよ次ばして」との話もありましたが、今後は「東京同窓会」に出席して交流を温めることとし、校歌、準校歌を高らかに斉唱、お

互いの健康長寿を祈って、同期会52年の幕を閉じました。

人の一生は重き荷を負うて遠き道を行くがごとし

急ぐべからず。不自由を常と思えば不足なし。

心と身体健康には適度の運動、人との交流、コミュニケーションが不可欠です。人生をまだまだ楽しみ、幸せの旅を続けましょう。

輝く幾多の優れた人材を輩出、各分野で数々の功績、歴史を積み重ねてきた母校伝習館。更なる発展と飛躍をご祈念申し上げます。伝習生ファイト！！「明朗・誠実・剛健」の三稜精神をも

つて大きく羽ばたき、活躍されることを心より祈ります。

「最後の同期会」出席者

◇世話役 池田孝人、一色康子、岩井治子、緒方征司、高石順子、中村清美、松本登四男

◇出席者 池上藤則、池田孝人、井上普富（福岡）、江崎淳（福岡）、大村泰生、緒方征司、北原巖（柳川）、堤八郎、竹下学（柳川）、中村清美、樋口誠佑、松本登四男、一色康子（田中）、岩井治子（福山）、大江ヒロミ（原尻・福岡）、木原由美子（福岡）、高石順子（高田） 敬称略17名

物故者 井田武久、与田芳樹、川崎悦子（古賀）、樋口綾子（江上）、村岡ハルノ

ショートエッセー
船小屋へ

高14 井上 晴美

今年はいつになく遅い梅雨明けだった。特に九州北部の筑後の地は最後の宣言だった。日本列島南北を大蛇がクネクネと我が物顔でうねっていく。不気味である。ともかく、梅雨は明けた。朝は、セミの合唱から始まる。昼は容赦ないカンカン照りの35度。天気は文句は言えない。順応するしかない。

先日、実家の寺で、昨年八十一歳で亡くなった兄と、ご先祖様の法事が執り行われた。おごそかに読経が終わり、法事の宴も終わり、広間が静かになっていく。本堂脇の、百日紅が静かに咲いている。まだ咲き初めの様だ。去年もそうだった。

翌日、坊守、弟夫婦、私共二人の計五人で一路、筑後市船小屋へと走る。

見えてきた、見えてきた。赤い鉄橋と樟林が。鉄橋の下を流れる矢部川、丸っこい石ころを寝床にサラサラと流れている。七十年前の石ころは、さぞや小さな小石か砂となっ

ているのではと



か。空の青、山の青、川の青、樟林の濃い緑、この眼にあふれそうだ。

いつの間にか、七十、八十となった五人。五足の小さな旅の小さな寛ぎは、互いをいたわり、思い合う、ささやかな思い出づくりとなったようだ。

川岸の歴史ある宿、「樋口軒」のたたずまいと、もてなしも、さり気なくて良かった。

樟若葉 競い合う樹の 芳せや
大楠は 昔も今も 山を背に
船小屋は 夏風涼し 湯気さらり



（絵手紙・井上晴美）

俳句会入会のすすめ

斜庵・小野 善睦

六十歳を過ぎて漢詩と俳句を始めた。俳句の方は友人に勧められ「一龍会」という句会に入会した。会員は初心者ばかり十五名前後。プロの先生は居なくて、先輩の人が主宰を務めてくれ、どんぐりの背比べだった。日本中、吟行し、日本橋などで月一回句会→宴会と、楽しい会だった。ところがコロナで休会。このままでは歴史ある会が終わると思う、私が主宰兼事務方を務め、

「一龍会在宅句会」

を始めた。この九月で一一五回を迎えた。現会員は、福岡三名・広島、大阪各一名・関東五名の十名である。

文字通り家にいたまま、メールで送受信する。伝習館後輩も二名参加中。

・私宛にメール下されば、それでめでたく入会 小野メールアドレス＝onp446@nifty.com

・入会費・会費無料

・以後、毎月十五日締切で月定季題の句を含め三〜六句を送信投句する

・その月の皆さんの投句の中から自分の好きな句を一句選び返信する

・入会后一年後くらいから月交代での選句当番をする

ダッデン！ イッデン！ ドッカラデン！
奮って入会シテハイヨ！

斜庵自選迷句抄

ふらここのふらここのだけで暮れにけり

NHK 俳句春秋 桂 信子 特選



呼び止めて蠟梅一枝賜ひけり

NHK 俳句春秋 桂 信子 秀作

よきことのありて葦笛鋭かり

NHK 俳句春秋 広瀬直人 秀作

風花や五合庵への道迷ふ

NHK 俳句春秋 鍵和田袖子 秀作

竹の子の竹より高き勢かな

NHK 俳句春秋 星野 椿 秀作

この道を君と歩きし時計草

NHK 俳句春秋 コンクール入選

夕藤や口数少なき人と逢ふ

NHK 俳句春秋 コンクール入選

薄氷へ小石滑らす漢あり

NHK 俳句春秋 入選

蕭条と多摩の陵黄落す

NHK 俳句春秋 入選

朝東風や蘇民将来犀打つ

NHK 俳句春秋 入選

ランドセルしやがみこんだり捨てて子

NHK 俳句春秋 入選

職を退くデスクの中の蟬の殻

NHK 俳句春秋 入選

逆さ富士潜りて乱すかいつぶり

NHK 俳句春秋 入選

やれ掃くな苔の上なる散椿

NHK 俳句春秋 入選

からたちの黄金の玉や友の墓

NHK 俳句春秋 入選

はつきりと風はありけり雪柳

NHK 俳句春秋 入選

猪鍋や平家の郷のおもてなし

NHK 俳句春秋 入選

遠富士を探しに行かむ秋の果て

NHK 俳句春秋 入選

最近の在宅句会より

瘦蛙負けずに御年九十歳

雀の子とけとけよたよた爺が通る

後輩会員の句

原田万紗子(高13回)

古雛や納めし妣の手の白し 3月特選

海青し見下ろす山や風光る 4月特選

水郷のオランダ囃子舟舞台 5月秀作

小さき指ゆびさす彼方虹立ちぬ 6月特選

終戦日「ふるさと」歌ふ慰霊祭 7月特選

秋の風棚田の青を波打たせ 9月秀句

井上 晴美(高14回)

春が来るそろりそろりと柳川へ 2月佳作

菊根分一鉢分の土作り 4月特選

ままことは血にみたてし柿若葉 5月秀作

衣更湯上りの祖母美しく 6月特選

夕暮れの乙女に似たり月見草 7月秀作

茹であげの栗のとりあい祖母に寄る 9月特選

2023年9月記・以上



賛助金のお振込方法

① 同封の郵便振替用紙で送る

② 銀行振り込みで送る場合

三井住友銀行（銀行コード0009） 鶴見支店（店番号572）

普通預金 口座番号7329411 口座名=伝習館東京同窓会

いずれの振り込みの場合にも○回生、または卒業年度をお書きください。通信欄には近況、会報へのコメントもどうぞ。

◆賛助金のお願い

伝習館東京同窓会は会費制をとらず、会員の皆様の篤志である賛助金により成り立っています。東京同窓会に集まる賛助金は会報の発行、会員への通信、総会・親睦会・交流会の開催などの経費に使用されており、皆様からいただく賛助金が東京同窓会の運営を支えています。1口2000円から何口でも結構です（半口1000円でも受け付けています）。同封の郵便振替用紙にて送付いただき（付いてない場合は送り先、別記）、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



事務局は以下の通り。

〒230・0073

横浜市鶴見区獅子ヶ谷1・9・1

白谷方

伝習館東京同窓会事務局

☎045・581・8193(兼FAX)

募集中！

1. 表紙絵・表紙用写真

2. 原稿—伝習館OBならOKです。

○テーマ自由（同窓会報にふさわしいもの。審査あり）

随筆・詩・短歌・俳句・川柳、絵画・写真・書など

○字数制限なし・原則※常識的範囲で（ワード原稿をメールで送付）

写真・絵・カット添付可

○表題・投稿者氏名・卒業回か卒業年度を書いて下さい。

※原則10月20日〆切

—原稿送付先—

〒153・0051

目黒区上目黒3・21・19

伝習館東京同窓会会報局

北島 正常 行

E-mail: anc54684@nifty.com

携帯 090・5532・0323

会報編集長より

先の東京同窓会総会は200人を超える参加がありました。介護を受けている高齢男性がどうしても参加したいと息子さんの手を借りて出席されていたり、杖を頼りに会場にたどり着いた熱心な方々を見るにつけ、先輩後輩が一堂に集う同窓会という場所は今後とも必要なのだと思感させられました。

今日の東京同窓会の現況ですが、会員は80、70代の高齢者が7割以上を占め、賛助金はほとんどがこの層から。それも今後は頭打ちとなり、これから高齢に向かう世代が同窓会の中核となります。今や同窓会への関心の希薄化（60代以下は顕著）に伴う投稿の減少、賛助金への協力も薄れ気味です。一時的にカンフル剤が効いたこともありますが、このまま費用過多に向かえば、東京同窓会は立ち行かなくなり、今や新聞、週刊誌も減少は避けられず、紙媒体はいつか苦戦しています。同窓会幹事会で1500人の会員に配布されていた会報について印刷・配送代の見直しを検討され、会報改革タスクフォースの方針として会報の電子化を実行に移すことになりました。このことは今後の同窓会活動を担う世代からの要望でもあります。今後、賛助金に代わる会費制の導入も検討されています。次の25号は電子版会報として発行することになりました（紙で必要な方は自前プリント版を用意する案も）。

中には働きながら定時制伝習館に通った女性会員から「会報を開くとそこに柳川がある。伝習館を思い出させてくれて、ありがとう」といったお礼のコメントにも励まされて継続してきました。私北島は小野善睦前編集長から受け継ぎ、15号から24号までを担当しました。会報をご愛読、また出稿いただき、盛り立てていただいた諸先輩の方々、感謝に堪えません。

会報は休刊したわけではありません。引き続きwebで受け継いで行きます。東京同窓会員を繋ぐ交流の役割は変わらず、投稿は今までどおりです。ご理解のほどお願い致します。

（東京同窓会会報編集長・北島 正常）
会報も掲載される新webサイトは以下の通りです。

伝習館高校東京同窓会

<https://denshukan-tokyodearfriend.org/>

なお新編集委員は以下の通りです。

北島 正常（編集長、高21）

西原 正道（高21）

池上 英次（高35）

下河 敏彦（高41）

弥永 邦夫（高42）

会長 白谷政則（高21）

副会長 桃島 正司（高16）

原田 万紗子（高13）

発行責任者 白谷 政則



フォトギャラリー&トピックス

伝習館創立200周年記念式典を挙

第9代藩主・立花鑑賢公の命名以来200周年を迎えた伝習館高校で、11月11日、創立200周年（県立移管130周年）を祝う記念式典が、生徒や同窓生ら約800人が参加して行われました。記念式典では立花民雄同窓会会長、井上淳郎館長（校長）に続き、服部誠太郎福岡県知事らの来賓が挨拶にたち、祝賀の辞を述べられました。さらには卒業生で佐賀大教授の池上康之氏が「志、挑戦、そして未来へ」と題し、記念講演。池上氏は海洋温度差発電研究の第一人者で、佐賀大海洋エネルギー研究所長を務めています。

その後、御花に会場を移し、祝賀会が開催され、応援団による演舞、金見美佳さんの歌唱が披露されました。



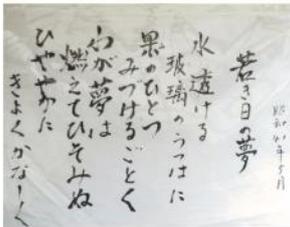
勝国師、伝習館創立200周年へ紅白梅寄贈



年初に人間国宝、杵屋勝国さん（牟田口照國）より、伝習館高校に創立200周年を祝って、紅白梅が寄贈されました。師は伝習館に在籍されたことがあり、その後長唄三味線を七代目杵屋勝三郎に師事するため、上京。長唄三味線界の重鎮、指導者として40年にわたり斯界を牽引されました。母校の同期生や柳川・瀬高との交流は続き、東京での同期会（高14回）にはよく出席されています。しかしながら、残念ながら、2月半ば急逝されました。例えば、人間国宝認定、旭日小受賞、恩賜賞・日本芸術院賞を立て続けに受けられた後でした。「承継者を育てたい」を使命とされ、心残りもあったと思います。改めて郷土の誇れる芸術家の喪失を惜しみます。



高14 高木節子・撮影



杵屋勝国筆「若き日の夢」



メジロのペア



双頭白蓮

生物班が育てる東大生まれのイチヨウ



2018年9月、「有明海の再生に向けた東京シンポジウム」全国日本学士会並びに地球システム・倫理学会主催が東京大学農学部中島ホールで開催された折、木庭慎治・生物教諭（昨年山門高校に転任）が「有明海再生へ向けての展望 韓国・順天湾干潟の再生・保全から有明海再生を展望する」と題し、講演。このシンポジウムに参加した高木節子さんらの東京同窓会会員が弥生キャンパスの中島ホール前でギンナンを拾って育てたものを譲り受け、2022年4月に自然科学部生物班の生徒が伝習館校庭に苗木を植樹した。イチヨウの苗木は夏の酷暑にも負けず成長しているという。イチヨウは世界で最古の現生樹といわれ、東大では樹齢200年を超えるものもある。次の100年へ、伝習館とともに今後も成長を続けることを願いたい。



東京同窓会ゴルフ同好会の報告

第10回 東京同窓会コンペ
11月20日
大宮国際カントリークラブ
天気・晴れ 参加者12人
優勝＝藤吉達也さん（高21回）



好天に恵まれた第10回の東京同窓会コンペですが、今回は女性4人が参加し、にぎやかなラウンドとなりました。強風が吹き荒れ、高速で小さなグリーンに皆が苦戦する中、グロス99（ネット73.8）でまとめた藤吉達也さん（高21）が貫録の優勝を遂げました。藤吉さんは6回大会でベスグロながら僅差でVを逃しており、今回初Vとなりました。

※令和6年度も2回のコンペを予定しています。東京同窓会ゴルフコンペに参加ご希望の方は山田雅彦（高40）までショートメッセージをお願いします。

TEL 090・5524・7028





「欄干橋から望む舟だまり」(高42回・弥永邦夫)

伝習館高校東京同窓会

<https://denshukan-tokyodearfriend.org/>



伝習館東京同窓会事務局

〒230-0073 横浜市鶴見区獅子ヶ谷 1-9-1 白谷方
TEL 045(581)8193 FAX 兼用